2022年度
大学院政治学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

政治学専攻_政治学特殊演習【X5000】政治学特殊演習１［河野　有理］春学期授業/Spring 1
政治学専攻_政治学特殊演習【X5001】政治学特殊演習２［河野　有理］秋学期授業/Fall 2
政治学専攻_修士専門科目【X5002】政治理論研究１［杉田　敦］春学期授業/Spring 3
政治学専攻_修士専門科目【X5003】政治理論研究２［杉田　敦］秋学期授業/Fall 3
政治学専攻_修士専門科目【X5008】行政学研究１［林　嶺那］春学期後半/Spring(2nd half) 4
政治学専攻_修士専門科目【X5009】行政学研究２［林　嶺那］秋学期後半/Fall(2nd half) 5
政治学専攻_修士専門科目【X5010】政治史研究１［細井　保］春学期授業/Spring 6
政治学専攻_修士専門科目【X5011】政治史研究２［細井　保］秋学期授業/Fall 6
政治学専攻_修士専門科目【X5012】日本政治史研究１［明田川　融］春学期授業/Spring 7
政治学専攻_修士専門科目【X5013】日本政治史研究２［明田川　融］秋学期授業/Fall 8
政治学専攻_修士専門科目【X5018】公共哲学研究１［西村　清貴］秋学期前半/Fall(1st half) 9
政治学専攻_修士専門科目【X5019】公共哲学研究２［宮川　裕二］秋学期後半/Fall(2nd half) 10
政治学専攻_修士専門科目【X5020】コミュニティ論研究１［渕元　初姫］秋学期前半/Fall(1st half) 11
政治学専攻_修士専門科目【X5021】コミュニティ論研究２［西谷内　博美］秋学期前半/Fall(1st half) 12
政治学専攻_修士専門科目【X5026】公共政策研究１［渕元　初姫］春学期前半/Spring(1st half) 13
政治学専攻_修士専門科目【X5027】公共政策研究２［渕元　初姫］春学期後半/Spring(2nd half) 14
政治学専攻_修士専門科目【X5030】政治過程研究１［山口　二郎］春学期授業/Spring 15
政治学専攻_修士専門科目【X5031】政治過程研究２［山口　二郎］秋学期授業/Fall 16
政治学専攻_修士専門科目【X5032】行政理論研究１［南島　和久］春学期後半/Spring(2nd half) 17
政治学専攻_修士専門科目【X5034】政策学研究１［土山　希美枝］春学期前半/Spring(1st half) 18
政治学専攻_修士専門科目【X5035】政策学研究２［鄭　智允］秋学期後半/Fall(2nd half) 19
政治学専攻_修士専門科目【X5041】比較政治論１［新川　敏光］春学期授業/Spring 20
政治学専攻_修士専門科目【X5042】比較政治論２［新川　敏光］秋学期授業/Fall 21
政治学専攻_修士専門科目【X5043】連帯社会とサードセクター［中村圭介、柏木宏、伊丹　謙太郎］春学期授業/Spring 22
政治学専攻_修士専門科目【X5044】立法学研究１［神崎　一郎］春学期前半/Spring(1st half) 23
政治学専攻_修士専門科目【X5048】自治体研究１［土山　希美枝］秋学期前半/Fall(1st half) 24
政治学専攻_修士専門科目【X5052】公務員制度研究［森谷　明浩］秋学期後半/Fall(2nd half) 25
政治学専攻_修士専門科目【X5057】雇用・労働政策研究［濱口　桂一郎］秋学期前半/Fall(1st half) 26
政治学専攻_修士専門科目【X5058】政策法務論［神崎　一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 27
政治学専攻_修士専門科目【X5059】防災危機管理研究［鍵屋　一］春学期前半/Spring(1st half) 28
政治学専攻_修士専門科目【X5063】ジェンダー政治研究［中野　洋恵］春学期後半/Spring(2nd half) 29
政治学専攻_修士専門科目【X5064】自治体福祉政策論［鏡　諭］秋学期前半/Fall(1st half) 31
政治学専攻_修士専門科目【X5065】自治体議会論［鍵屋　一］春学期後半/Spring(2nd half) 32
政治学専攻_修士専門科目【X5066】ＮＰＯ論１［柏木　宏］春学期前半/Spring(1st half) 33
政治学専攻_修士専門科目【X5067】ＮＰＯ論２［柏木　浩］春学期後半/Spring(2nd half) 34
政治学専攻_修士専門科目【X5069】シンクタンク論［蒔田　純］秋学期集中/Intensive(Fall) 36
政治学専攻_修士専門科目【X5073】国際政治の基礎理論１［湯澤　武］秋学期授業/Fall 37
政治学専攻_修士専門科目【X5078】国際開発政策研究１［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) 38
政治学専攻_修士専門科目【X5086】国際地域研究１［熊倉　潤］春学期授業/Spring 39
政治学専攻_修士専門科目【X5087】国際地域研究２［熊倉　潤］秋学期授業/Fall 40
政治学専攻_修士専門科目【X5098】国連・平和構築研究１［弓削　昭子］春学期授業/Spring 41
政治学専攻_修士専門科目【X5108】国際行政研究２［坂根　徹］ 42
政治学専攻_博士専門科目【X5200】博士論文演習ＩＡ［杉田　敦］春学期授業/Spring 43
政治学専攻_博士専門科目【X5201】博士論文演習ＩＢ［杉田　敦］秋学期授業/Fall 44
政治学専攻_博士専門科目【X5202】博士論文演習ⅡＡ［犬塚　元］春学期授業/Spring 45
政治学専攻_博士専門科目【X5203】博士論文演習ⅡＢ［犬塚　元］秋学期授業/Fall 45
政治学専攻_博士専門科目【X5204】博士論文演習ⅡＡ［山口　二郎］春学期授業/Spring 46
政治学専攻_博士専門科目【X5205】博士論文演習ⅡＢ［山口　二郎］秋学期授業/Fall 47
政治学専攻_博士専門科目【X5206】博士論文演習ⅢＡ［新川　敏光］春学期授業/Spring 48
政治学専攻_博士専門科目【X5207】博士論文演習ⅢＢ［新川　敏光］秋学期授業/Fall 49
政治学専攻_博士専門科目【X5220】政治学特別講義１［杉田　敦］春学期授業/Spring 49
政治学専攻_博士専門科目【X5221】政治学特別講義２［杉田　敦］秋学期授業/Fall 50
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）【X5500】国際政治理論［湯澤　武］秋学期授業/Fall 51

国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）【X5506】アジア国際政治史［福田　円］春学期授業/Spring 52
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）【X5508】国際公共政策研究２［坂根　徹］春学期授業/Spring 53
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）【X5509】国際協力政策研究１［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) .. 54
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）【X5511】非伝統的安全保障研究［本多　美樹］春学期授業/Spring 55
国際政治学専攻_必修科目【X5512】Academic Reading（初級）［アラン　メドウズ］春学期授業/Spring 57
国際政治学専攻_必修科目【X5513】Academic Reading（上級）［ザヘル・ハスン］秋学期授業/Fall 58
国際政治学専攻_必修科目【X5514】Thesis Writing（初級）［アラン　メドウズ］春学期授業/Spring 59
国際政治学専攻_必修科目【X5515】Thesis Writing（上級）［ザヘル・ハスン］秋学期授業/Fall 60
国際政治学専攻_必修科目【X5516】Presentation & Debate（初級）［アラン　メドウズ］春学期授業/Spring 61
国際政治学専攻_必修科目【X5517】Presentation & Debate（上級）［ザヘル・ハスン］秋学期授業/Fall 62
国際政治学専攻_選択科目【X5518】国連・平和構築研究１（国連組織）［弓削　昭子］春学期授業/Spring 63
国際政治学専攻_選択科目【X5520】国際公共調達研究１［坂根　徹］秋学期授業/Fall 64
国際政治学専攻_選択科目【X5523】持続可能な開発のための教育（ESD）［弓削　昭子］春学期授業/Spring 65
国際政治学専攻_選択科目【X5526】地球規模課題政策研究［本多　美樹］秋学期授業/Fall 66
国際政治学専攻_選択科目【X5528】アジア統合論［福田　円］秋学期授業/Fall 67
国際政治学専攻_選択科目【X5534】対外政策研究（朝鮮半島）（１）［権　鎬淵］春学期授業/Spring 67
国際政治学専攻_選択科目【X5535】対外政策研究（朝鮮半島）（２）［権　鎬淵］秋学期授業/Fall 68
国際政治学専攻_選択科目【X5536】ロシア政治外交研究１［溝口　修平］春学期授業/Spring 69
国際政治学専攻_選択科目【X5537】ロシア政治外交研究２［溝口　修平］秋学期授業/Fall 70
国際政治学専攻_選択科目【X5538】国際地域研究（中国）（１）［熊倉　潤］春学期授業/Spring 71
国際政治学専攻_選択科目【X5539】国際地域研究（中国）（２）［熊倉　潤］秋学期授業/Fall 72
国際政治学専攻_選択科目【X5544】国際地域研究（東南アジア）（１）［浅見　靖仁］春学期授業/Spring 73
国際政治学専攻_選択科目【X5545】国際地域研究（東南アジア）（２）［浅見　靖仁］秋学期授業/Fall 74
国際政治学専攻_選択科目【X5546】国際地域研究（ヨーロッパ）（１）［宮下　雄一郎］春学期授業/Spring 75
国際政治学専攻_選択科目【X5547】国際地域研究（ヨーロッパ）（２）［宮下　雄一郎］秋学期授業/Fall 76
国際政治学専攻_選択科目【X5548】日本政治外交研究１［高橋　和宏］春学期授業/Spring 77
国際政治学専攻_選択科目【X5549】日本政治外交研究２［高橋　和宏］秋学期授業/Fall 78
国際政治学専攻_選択科目【X5550】グローバル政治経済特別セミナー［坂根　徹］秋学期集中/Intensive(Fall) 79
国際政治学専攻_選択科目【X5551】開発援助運営論：ＪＩＣＡ講座［弓削　昭子］秋学期授業/Fall 80
国際政治学専攻_選択科目【X5552】国際機関講座［弓削　昭子］秋学期授業/Fall 81
国際政治学専攻_選択科目【X5554】総合講座・国際協力講座［弓削　昭子］秋学期授業/Fall 82

POL600A3

政治学特殊演習 1

河野　有理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。1 は春学期に開講される。

【到達目標】
最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
政治学特殊演習 1 は、7 月初旬に行なう論文構想発表会が、将来に向けた重要な発表の経験の機会となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の概要、進め方について説明する。
第 2 回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムを受講する。
第 3 回	論文執筆の心構え	コースワークとは独自にどのように論文を準備していったらよいかを考える。
第 4 回	研究論文の基本	研究論文の基本を学習、確認する。
第 5 回	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
第 6 回	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どんな論文を書いていくかを考える。
第 7 回	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第 8 回	資料収集	特に一次資料については、その所在や入手方法を確認し、収集計画を立てる。
第 9 回	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
第 10 回	問いと観点の明瞭化	資料・文献の読解、分析に基づいて、どのような研究上の問いと観点を採用するのかを検討する。
第 11 回	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第 12 回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第 13 回	論文構想発表会（精察）	他の院生がおこなう研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第 14 回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要なときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
1 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（80%）、提出物（20%）で評価する。2 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
1 Aim
The Seminar I and II are series of courses, which are instructed by your supervisor and the other members of the Department of Politics. The aim of this course is to provide basic skills and knowledge that are indispensable for writing master's thesis. You have the Seminar I in the spring semester.
2 Method
This seminar is held as workshops by supervisors of each graduate student and other staffs in the Department of Politics. Staffs will make comments and suggestions to reports by students.
3 Requirements
A student must report agenda and outline of his/her thesis once a semester. Credit will be given if students accomplish the requirements.

POL600A3

政治学特殊演習２

河野　有理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。2 は秋学期に開講される。

【到達目標】
最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。
修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
政治学特殊演習 2 は、12 月初旬に行なう論文構想発表会がそれぞれの院生にとって最も重要な発表の機会とアンる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士 2 年はもちろん、修士 1 年の院生もなるべく論文の大まかなテーマは決めるようにしたい。
第 2 回	先行研究のフォロー、分析	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第 3 回	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
第 4 回	問いと観点の設定	資料・文献の読解、分析に基づいて、研究上の問いと観点を設定する。
第 5 回	研究史における位置づけ	論文で扱う（扱おうとしている）研究内容を、当該分野における研究史の文脈上に位置づける。
第 6 回	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてのレジュメを作成してみる。特に修士 2 年生は詳しいレジュメを作る。
第 7 回	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
第 8 回	論文構成の調整	執筆過程で新たな考察要素を加えることの必要に気付いた場合などには、必要に応じて論文の構成を調整する。
第 9 回	文献・資料の補強	研究の深化に対応して、文献・資料の収集、分析を必要に応じて継続する。
第 10 回	校閲、推敲	論文の執筆過程における校閲、推敲の重要さを理解する。
第 11 回	論文構想発表会資料づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第 12 回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第 13 回	論文構想発表会（精察）	他者の研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第 14 回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要なときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
1 Aim
The Seminar I and II are series of courses, which are instructed by your supervisor and the other members of the Department of Politics. The aim of this course is to provide basic skills and knowledge that are indispensable for writing master's thesis. You have the Seminar I in the spring semester.
2 Method
This seminar is held as workshops by supervisors of each graduate student and other staffs in the Department of Politics. Staffs will make comments and suggestions to reports by students.
3 Requirements
A student must report agenda and outline of his/her thesis once a semester. Credit will be given if students accomplish the requirements.

POL500A3

政治理論研究１

杉田　敦

備考（履修条件等）：**学部「外国書購読（英語）Ⅰ」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。
対面で行う予定だが、感染症の状況次第では遠隔で実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
本講義は、学部における外書購読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL500A3

政治理論研究２

杉田　敦

備考（履修条件等）：**学部「外国書購読（英語）Ⅱ」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度、指定する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
この講義は、学部における外書購読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL500A3

行政学研究 1

林　嶺那

備考（履修条件等）：**公共政策学「行政学基礎」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。後者の特定のテーマとして今回は「第一線公務員」を取り上げます。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週 1 コマ目は行政学の基本書を、2 コマ目は特定のテーマに関する日本語・英語論文を扱います。ただし、最初の週のみ 1 コマ目はガイダンス、2 コマ目は基本書の読解とします。
1 コマ目は、真渕勝（2020）『行政学［新版］』を利用します。受講者は、事前に予習を行った上で、不明点あるいは疑問点をまとめたコメントペーパー（A4 一枚程度）を準備します。このコメントペーパーを受講者間で共有し、議論を行います。2 コマ目は、予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。受講を予定している方は、初回までに真渕（2020）を購入した上で、「序章」「第 1 章」「第 2 章」「第 3 章」を通読し、コメントペーパーを準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第 2 回	官僚制ほか	真渕（2020）の「序章」～「第 3 章」
第 3 回	政策決定と実施ほか	真渕（2020）の「第 4 章」～「第 8 章」
第 4 回	論文の報告①	第一線公務員研究のサーベイ論文
第 5 回	行政責任ほか	真渕（2020）の「第 9 章」～「第 13 章」
第 6 回	論文の報告②	第一線公務員と市民との関係
第 7 回	中央省庁ほか	真渕（2020）の「第 14 章」～「第 18 章」
第 8 回	論文の報告③	第一線公務員相互の関係
第 9 回	予算編成ほか	真渕（2020）の「第 19 章」～「第 23 章」
第 10 回	論文の報告④	第一線公務員と代表的官僚制
第 11 回	地方自治ほか	真渕（2020）の「第 24 章」～「第 28 章」
第 12 回	論文の報告⑤	第一線公務員の意思決定
第 13 回	大都市行政ほか	真渕（2020）の「第 29 章」～「終章」
第 14 回	論文の報告⑥	第一線公務員とコミュニケーションスタイル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、教科書講読 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、4290 円。

【参考書】
適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
The course aims to provide students with an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. As the latter specific theme, we will focus on "street-level bureaucrats. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500A3

行政学研究２

林　嶺那

備考（履修条件等）：**公共政策学「行政学事例研究の方法」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について、体系書と実証研究を元に理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】
行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第 3 回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第 4 回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第 5 回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 6 回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 7 回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第 8 回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第 9 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第 14 回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.
Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.
Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500A3

政治史研究１

細井　保

備考（履修条件等）：**学部「政治学特殊講義１」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】
政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある院生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる院生であっても、政治学専攻に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学専攻の院生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、大学院入試などでしばしばとりあげられていて、大学院入試を受ける際に勉強はしたことはあるが、実際には手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。さしあたりハーバーマスやロールズなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face
春学期

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
3	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
4	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
5	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
6	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
7	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
10	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
11	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
12	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
13	ハーバーマス	『後期資本主義における正統化の問題』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】
ハーバーマス『後期資本主義における正統化の問題』岩波書店
ロールズ『正義論』紀伊國屋書店

【参考書】
授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.
English Keyword: classical works of political science

POL500A3

政治史研究２

細井　保

備考（履修条件等）：**学部「政治学特殊講義２」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】
政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある院生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる院生であっても、政治学専攻に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学専攻の院生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、大学院入試などでしばしばとりあげられていて、大学院入試を受ける際に勉強はしたことはあるが、実際には手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。さしあたりハーバーマスやロールズなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face
秋学期

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ロールズ	『正義論』
3	ロールズ	『正義論』
4	ロールズ	『正義論』
5	ロールズ	『正義論』
6	ロールズ	『正義論』
7	ロールズ	『正義論』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	ロールズ	『正義論』
10	ロールズ	『正義論』
11	ロールズ	『正義論』
12	ロールズ	『正義論』
13	ロールズ	『正義論』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】
ハーバーマス『後期資本主義における正統化の問題』岩波書店
ロールズ『正義論』紀伊國屋書店

【参考書】
授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.
English Keyword: classical works of political science

POL500A3

日本政治史研究 1

明田川　融

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国―といっても主力は米国であったが―による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】
受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようになることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014 年）および櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015 年）を精読し、議論する。
なお、2 回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	対日占領性政策の立案	SWINCC150 シリーズ、JCS1380 シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第 2 回	対日占領のはじまり	その究極目的
第 3 回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第 4 回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要塞化の相関
第 5 回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第 6 回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第 7 回	対日政策の転換	PPS28 シリーズ～NSC13 シリーズの形成
第 8 回	講和論争	日米で二分される国論
第 9 回	講和準備研究作業	NSC60/1 への道、A・B・C・D 作業
第 10 回	講和交渉	日米の外交指導
第 11 回	対日講和条約の成立	第 3 条（潜在主権方式）の形成を中心に
第 12 回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第 13 回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第 14 回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学修が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】
福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014 年。
櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015 年。

【参考書】
思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972 年。
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983 年。
五百旗頭真『米国の日本占領政策　戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985 年。
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987 年。
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集　1945-1951』法政大学出版局、2000 年。
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム　GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（100 %）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用したり、オンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】
重要なお知らせ（2022 年 2 月 8 日）
新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　日米関係史、日本政治外交史
＜研究テーマ＞　日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史
＜主要研究業績および刊行物＞
・『日米行政協定の政治史―日米地位協定研究序説―』法政大学出版局、1999 年。
・『沖縄基地問題の歴史―非武の島、戦の島―』みすず書房、2008 年（第 30 回沖縄協会・沖縄研究奨励賞 [社会科学部門] 受賞）。
・『日米地位協定―その歴史と現在―』みすず書房、2017 年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第 1 回配本分、全 7 巻）現代史料出版、2017 年。
・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に 2013 年 6 月号より 2015 年 8 月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ　増補版』法政大学出版局、2003 年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和　戦争と平和の日本』みすず書房、2010 年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ　「パックス・アメリカーナ」か「パックス・アジア」か』ＮＨＫ出版、2014 年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952 年　沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015 年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する〝国民感情〟と政府の安全保障政策との連関について研究をまとまるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。
また、1950 年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしえたことと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。
現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集成の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.
【Learning objectives】
The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL500A3

日本政治史研究２

明田川　融

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二次大戦後を扱った日本政治史において、一見して意外に思われるのが、沖縄・昭和天皇・安保を含む日米関係の連関である。そして、その生成および展開過程についての検証や考察が充分になされてきたとは言い難い。本授業では、当該期の日本を取り巻く国際環境や日本が置かれた地理的条件などとも関連づけながら、戦後日本政治史においてあまり取りあげられてこなかった未解明の領域について知見を深め拡げていきたい。そのような作業は「昭和」の終焉から 30 年が経ち、平成も終わろうとする今日、不可欠と考える。当該機にかかわる新発見史料、研究論文、文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】
これまで、第二次大戦後を扱った日本政治史研究において最も欠落していたのは、沖縄および昭和天皇という、じつは密接な連関をもつ二つのファクターを充分に分析し、定位するという作業であった。本授業では、近年公開された沖縄をめぐる日米両政府の公文書や、2021 年より刊行が始まった『昭和天皇拝謁記　初代宮内庁長官田島道治の記録』（古川隆久ほか編、岩波書店）を読み込みながら、戦後日本政治史についての知見をより深め、拡げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストとして、田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・冨永 望・瀬畑 源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉ＮＨＫ『昭和天皇拝謁記　初代宮内庁長官田島道治の記録』（岩波書店）および関連資料を精読し、議論する。
なお、2 回目以降となるが、授業のはじめに課題に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	長官就任	1949 年 2 月 3 日の条～同 12 月 29 日の条（以下、1949.2.3～12.29 などと略記する）を精読する。なお、左記の「テーマ」と当該の条にある記述とは必ずしも一致しない場合もあります。
第 2 回	拝謁記執筆	1950.1.2～5.25 を精読する。
第 3 回	憲法問題	1950.5.30～10.23 を精読する。
第 4 回	共産主義	1950.10.31～1951.5.27 を精読する。
第 5 回	逆コース	1951.5.29～6.27 を精読する。
第 6 回	レッド・パージ	1951.8.3～9.4 を精読する。
第 7 回	追放解除	1951.9.4～9.22 を精読する。
第 8 回	朝鮮戦争	1951.9.22～10.23 を精読する。
第 9 回	再軍備	1951.10.30～12.14 を精読する。
第 10 回	講和問題	1951.12.17～1952.3.5 を精読する。
第 11 回	安保条約	1952.3.5～1952.4.30 を精読する。
第 12 回	沖縄	1952.5.3～1952.9.16 を精読する。
第 13 回	米軍駐留	1952.9.19～1952.12.19 を精読する。
第 14 回	「拝謁記」が語ること	1952.12.24～1953.12.15 を精読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学修が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】
田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・冨永 望・瀬畑 源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉ＮＨＫ『昭和天皇拝謁記　初代宮内庁長官田島道治の記録』１（岩波書店、2021 年）、および同２（岩波書店、2022 年）。

【参考書】
豊下楢彦『安保条約の成立―吉田外交と天皇外交』（岩波書店、1996 年）。
同上　『昭和天皇・マッカーサー会見』（岩波書店、2008 年）。
同上　『昭和天皇の戦後日本―〈憲法・安保体制〉にいたる道―』（岩波書店、2015 年）。
吉次公介「知られざる日米安保体制の “守護者” ―昭和天皇と冷戦」『世界』第 755 号所収。
古川隆久『昭和天皇―「理性の君主」の孤独―』（中央公論新社、2011 年）。
宮内庁『昭和天皇実録　第九』（東京書籍、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（100 %）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用したり、オンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】
重要なお知らせ（2022 年 2 月 8 日）
新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　日米関係史、日本政治外交史
＜研究テーマ＞　日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史
＜主要研究業績および刊行物＞
・『日米行政協定の政治史―日米地位協定研究序説―』法政大学出版局、1999 年。
・『沖縄基地問題の歴史―非武の島、戦の島―』みすず書房、2008 年（第 30 回沖縄協会・沖縄研究奨励賞 [社会科学部門] 受賞）。
・『日米地位協定―その歴史と現在―』みすず書房、2017 年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第 1 回配本分、全 7 巻）現代史料出版、2017 年。
・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に 2013 年 6 月号より 2015 年 8 月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ　増補版』法政大学出版局、2003 年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和　戦争と平和の日本』みすず書房、2010 年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ　「パックス・アメリカーナ」か「パックス・アジア」か』ＮＨＫ出版、2014 年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952 年　沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015 年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する〝国民感情〟と政府の安全保障政策との連関について研究をまとまるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。
また、1950 年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしえたことと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。
現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集成の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Political history of Japan 2 is an essay to clarify the relation among Okinawa, Showa emperor and U.S.-Japan security arrangements. At a glance, students feel strange about the relation of the three. But recent years, some historical materials were discovered and have shown the evidences of the relation. Today–30 years after the Showa period– it is essential for us to examine newly found historical fact.
【Learning objectives】
The goals of this course are to understand the political history of post-war Japan and the role of Showa Emperor.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL500A3

公共哲学研究 1

西村　清貴

備考（履修条件等）：**公共政策学・サステイナビリティ学「公共哲学基礎」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念の歴史的由来と、現代公共哲学における意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念の思想史的意義について理解したうえで、現代の代表的公共哲学において、これらの諸概念にどのような意義が与えられているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究科の「公共哲学基礎」と政治学研究科の「公共哲学研究 I」とを合併開講する。講義を行うほか、文献を講読する。
講義については、「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学にとって重要と思われる諸概念が生成されるにあたり大きく貢献した思想家を取り扱う。
文献購読については、J・J・ルソー『社会契約論』について各参加者に割り振られた箇所について報告してもらう。本書は、公共哲学や政治哲学の古典中の古典である。古典として今日においても読まれていることの意義をしっかりと味わってもらいたい。
本講義は、2 コマ続きを 7 回行う 4 期制の科目であるが、以下の「授業計画」では、1 コマずつ記載している。初日と最終日を除いて、1 コマ目が講義、2 コマ目が文献講読、というように進める予定である。
なお、今後のコロナ感染状況に関する大学の方針等により変更はあり得るが、原則として、対面で授業を行う。スケジュールの伝達は Hoppi を通じて行うので、確認しておくこと。
なお、学期末にレポートを提出してもらう。レポートについては講評を付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (1 日目 前半)	イントロダクション	講義の目的や内容について説明する
第 2 回 (1 日目 後半)	政治社会の成立	古代や中世において政治がいかなる営みであったかを見る
第 3 回 (2 日目 前半)	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る
第 4 回 (2 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編前半
第 5 回 (3 日目 前半)	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る
第 6 回 (3 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編後半
第 7 回 (4 日目 前半)	ヘーゲルと市民社会／国家	近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る
第 8 回 (4 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編前半
第 9 回 (5 日目 前半)	ハンナ・アレントと公共性	今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心に見る
第 10 回 (5 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編後半
第 11 回 (6 日目 前半)	ハーバマスと公共性	「公共性の構造転換」を中心にユルゲン・ハーバマスの議論を見る
第 12 回 (6 日目 後半)	文献購読	テキスト第三編前半
第 13 回 (7 日目 前半)	文献購読	テキスト第三編後半
第 14 回 (7 日目 後半)	文献購読	テキスト第四編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、報告者であるないにかかわらず、テキストの該当箇所を事前に読んでおき、授業における発言についてあらかじめ考えておくこと。

【テキスト（教科書）】
ルソー、中山元訳『社会契約論/ジュネーヴ草稿』(光文社古典新訳文庫、2008 年)

【参考書】
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【成績評価の方法と基準】
報告 40 パーセント、学期末レポート 40 パーセント、その他授業への貢献度 (討論等)20 パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き、感染対策にしっかりと気をつけたい

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　法思想史・法哲学
＜研究テーマ＞　19 世紀ドイツ法思想
＜主要研究業績＞　西村清貴『近代ドイツの法と国制』(成文堂、2017 年)
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture aims to learn the historical origins of basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society" and their significance in contemporary public philosophy.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society", and the historical-philosophical significance of important concepts in public philosophy such as "nation", "community", "individual", and "market".
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the relevant part of the text in advance and think about what you will say in class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following .

Short report: 40%, Term-end report : 40%, class contribution: 20%

POL500A3

公共哲学研究２

宮川　裕二

備考（履修条件等）：**公共政策学「公共哲学研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目である。主として「自由」や「リベラリズム」の概念にかかわる文献の講読を行い、受講生が思想的なアプローチから公共そして公共政策にかかわる現代的な課題を把握し議論できる知見を涵養することを目的とする。

【到達目標】
自由やリベラリズムという思想と概念と「法の支配」や「民主主義」といった社会・政治システムとの関わりを理解し、受講生が公共そして公共政策にかかわる現代的な課題について理論的に考察・探究できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的講義	講読する文献とテーマについての導入的講義を行う
第 2 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 1 章	「法の支配」
第 3 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 2 章	「民主主義とリベラリズム」
第 4 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 3 章	「正義・善・幸福」
第 5 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 4 章	「『自由』と『合理性』の限界とその先へ」
第 6 回	文献講読：「自由」および関連テーマに関する論文（思想）	文献講読のなかで関心の深まった思想的テーマに関する論文について講読する
第 7 回	文献講読：「自由」および関連テーマに関する論文（現代的課題）	文献講読のなかで関心の深まった現代的課題に関する論文について講読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は文献を事前に精読し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
中村隆文『リベラリズムの系譜学』（みすず書房）を文献講読のテキストとする。思想的潮流や諸論点が要領よく整理され、専門書としては取りつきやすいものと思われる。また第 6・7 回は「自由」および関連テーマに関する論文を講読予定である。受講生は、どんな文献を読みたいかを考えながら受講すること。

【参考書】
必要に応じて授業中に示唆する。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言 （20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公共政策の政治社会学
＜研究テーマ＞新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治
＜主要研究業績＞
『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：統治性研究アプローチによる「新しい公共」概念の類型化を通じた分析』（博士論文、2021 年）
「『新自由主義ガバナンス』論による『地方創生』実施スキーム分析」（『唯物論研究年誌』第 23 号、 2018 年）
「日本の『新しい公共 (空間)』政策言説：『統治性研究』アプローチを用いた類型化分析」（『公共政策志林』第 5 号、2017 年）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability to understand and discuss contemporary issues related to the public and public policy from an ideological approach by reviewing literature, mainly on the concepts of "freedom/liberty" and "liberalism". (Learning Objectives) The goals of this course are to understand the relationship between the ideas and concepts of "freedom/liberty" and "liberalism" and the social/political systems such as "rule of law" and "democracy", and to be able to theoretically consider and explore contemporary issues related to the public and public policy. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports., and to write a term-end report to be presented at the end of the class. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20 %).

POL500A3

コミュニティ論研究 1

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**公共政策学「市民社会とコミュニティ」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。
日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】
日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本的特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人と人の間の「つながり」がどのように変化してきたのかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えるため、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化したのかを考える。
第 4 回前半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回前半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回前半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する
第 6 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 7 回前半	コミュニティの「再生」	現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。
第 7 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500A3

コミュニティ論研究２

西谷内　博美

備考（履修条件等）：**公共政策学「コミュニティ制度論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】
・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業。授業の構成は受講者数に依存しますが、おおよそ、講義が 2/3、受講生による課題発表が 1/3 程度を予定しています。講義は、think-pair-share 等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。課題へのフィードバックは授業内で実施されます。すなわち、課題発表のさいに、発表された内容についてクラス全体で検討・議論をするなかで、課題の取り組みに対する量的・質的なフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回前半	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。
第 1 回後半	コミュニティ制度論の視角	たとえば「参加」と「協働」といった、コミュニティの制度を分析するための本授業におけるキー概念を共有する。
第 2 回前半	日本におけるコミュニティの制度化	日本におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 2 回後半	地域運営の条件	ミルトン・コトラーの地域運営の条件について学習する。
第 3 回前半	ドイツにおけるコミュニティの制度化	ドイツにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 3 回後半	自治会・町内会論	日本の自治会・町内会に関して、民間原理の側面と、制度的な側面について考察する。
第 4 回前半	スコットランドにおけるコミュニティの制度化	スコットランドにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 4 回後半	ライティングの技法	期末レポートの課題を提示するとともに、英米型のライティングメソッドを共有する。
第 5 回前半	フランスにおけるコミュニティの制度化	フランスにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 5 回後半	インドにおけるコミュニティの制度化Ⅰ	インド農村部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 6 回前半	フィリピンにおけるコミュニティの制度化	フィリピンにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 6 回後半	インドにおけるコミュニティの制度化Ⅱ	インド都市部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 7 回前半	ライティング発展	期末レポートの進捗状況、すなわちテーマや方向性などについて確認・議論・検討する。
第 7 回後半	日本におけるコミュニティ政策の展開	日本におけるコミュニティ政策の展開を概観し、その制度的特徴及び今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を予習・復習し理解を深めてください。とりわけ第 1 回後半で実施するキー概念の共有は極めて重要です。
また、各自、担当課題の報告準備（学習、調査、資料作成）をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社.

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 35 %、課題報告（レジュメ作成を含む）35 %、授業内での討論・発言 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、コミュニティ論、国際協力論
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発と社会
＜主要研究業績＞
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.
2011「デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策」『国際開発研究』67-80.

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.
The goals of this course are to A, B, and C.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end essay: 35%、in class presentation (including reporting regime) : 35%、in class contribution: 30%.

POL500A3

公共政策研究 1

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**公共政策学・サステイナビリティ学・連帯社会「政策学基礎」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】
政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第 2 回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第 3 回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第 4 回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第 5 回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第 6 回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第 11 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 12 回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第 13 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500A3

公共政策研究２

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**公共政策学「政策学研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるよう、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】
政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第 2 回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第 3 回	政策研究におけるモデルの基礎１	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第 4 回	政策研究におけるモデルの基礎２	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第 5 回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第 6 回	政策決定と制度・利益・アイディア	政策決定における３つの「I」について学ぶ。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と３つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	アリソンの３つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための３つの概念レンズから学ぶ。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの３つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。
第 11 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 12 回	政策とデータ	政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。
第 13 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500A3

政治過程研究 1

山口　二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解する。

【到達目標】
日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義。
授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第 2 回	1　政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第 3 回	1　政治とは何か２	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第 4 回	1　市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第 5 回	2　政治に参加するということ	政治参加と民主主義を論じる。
第 6 回	2　政治に参加するということ	多数決と民主主義の関係について考える。
第 7 回	3　人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第 8 回	4　民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第 9 回	4　民主政治の理念とは何か２	政治における自由と平等について考える。
第 10 回	4　民主政治の理念とは何か３	政治における共同体と国家について考える。
第 11 回	5　民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第 12 回	5　民主政治の基本的な原理と構成２	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第 13 回	6　政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする
第 14 回	7　民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山口二郎　今を生きるための政治学　岩波書店

【参考書】
文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学、行政学
＜研究テーマ＞現代日本の政策過程、政官関係
＜主要研究業績＞
内閣制度（東京大学出版会、2007 年）
政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012 年）

【Outline (in English)】
1 Aim
This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.
2 Method

Students need to read the textbook and other material and try to adapt concepts explained in lectures to actual political phenomena through reading news.
3 Grading
Grading will be decided based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

POL500A3

政治過程研究２

山口　二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
下記の文献を読み、現代民主主義の現状と課題について考える。
Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021

【到達目標】
21 世紀の欧米の政治学における民主主義論について、全体像を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストを訳読しながら、そこで論じられている問題について議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	Preface
第 2 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	1
第 3 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	1 続き
第 4 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	1　続き
第 5 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	2
第 6 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	2　続き
第 7 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	2　続き
第 8 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	2　続き
第 9 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	3
第 10 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	3　続き
第 11 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	3　続き
第 12 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	4
第 13 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	4　続き
第 14 回	Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021	4　続き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回事前にテキストを読み、翻訳を準備すること。予習には標準とされる２時間を越える相当な時間が必要となるので覚悟のうえで参加すること。

【テキスト（教科書）】
Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
毎回の参加状況を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
あえて難しい文献に挑戦する機会を作る。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This seminar aims at understanding the basic arguments and concepts about contemporary democracy by reading the following book.
Jan-Werner Muller, Democracy Rules, Farrar Straus and Giroux, 2021
Students must read the text in advance and prepare translation every time.
Grading will be decided on students' participation and contribution.

POL500A3

行政理論研究 1

南島　和久

備考（履修条件等）：**公共政策学・サステイナビリティ学「政策評価論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990 年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】
本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。
これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の３点である。
①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAO のプログラム評価、GPRA/GPRAMA の史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンラインにて行う予定である。授業は 1 回 2 時限続きで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、あくまでも計画段階のものであり、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第 2 回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第 3 回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第 4 回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第 5 回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように取り組まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第 6 回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第 7 回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPM と評価、独法の歴史、３つの独法形態と評価
第 8 回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第 9 回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法

第 10 回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、３つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第 11 回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第 12 回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうち GPRA の改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第 13 回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第 14 回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020 年。

【参考書】
今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第３版）』北樹出版、2015 年。
石橋・佐野・土山・南島『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008 年。
佐藤竺監修、今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門（新訂版）』実務教育出版、2009 年。
南島和久編『JAXA の研究開発と評価』晃洋書房、2020 年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010 年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018 年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014 年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013 年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997 年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006 年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010 年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012 年。
山谷清志監修、大島巌、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020 年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点及び報告（40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima @ jura. niigata-u. ac. jp（「@」と「.」は全角となっています。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、公共政策学
＜研究テーマ＞政策評価の制度運用
＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（晃洋書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第３版）』（北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（法大出版）、『組織としての大学』（岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（晃洋書房）、『市民のための地方自治入門』（実務教育出版）など

【Outline (in English)】
Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

POL500A3

政策学研究 1

土山　希美枝

備考（履修条件等）：**公共政策学「政策過程研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。
この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
・歴史的に形成されてきた政策類型をふまえ
・公共政策の過程の基礎を学び
・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。
なお、原則として対面講義とする。
※初回開講時にはテキスト１章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第 2 回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第１章）
第 3 回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第２章）
第 4 回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第３章）
第 5 回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第４章）
第 6 回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第５章）
第 7 回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第６章）
第 8 回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第７章）
第 9 回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第８章）
第 10 回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第９章）
第 11 回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第 10 章）
第 12 回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第 11 章）
第 13 回	政策の決定	政策の決定とその過程（第 12 章）
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】
松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会,1991 年。

【参考書】
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。
石

【成績評価の方法と基準】
授業への参加：議論への参加（25 %）、コメント（25 %）の様子、授業の成果：授業内での報告（25 %）、期末レポート（25 %）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).
We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.
It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.
Learning Objectives;
- Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.
- Understand the policy types that have been formed historically.
- Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.
Learning activities outside of classroom;
- Completion of textbook and related papers/books
Grading Criteria /Policy
- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500A3

政策学研究２

鄭　智允

備考（履修条件等）：**公共政策学「政策過程事例研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】
既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第 3.4 回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第 5.6 回	政策と官僚、そして規制	官僚ははなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第 7.8 回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第　9.10 回	政策事例② 防災政策	東日本大震災を事例として防災政策のあり方を考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 自治体と廃棄物処理	自治体における廃棄物の処理と課題について考察する。
第 13.14 回	政策事例④ コロナ対策	保健所を軸とするコロナ対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
最初の授業で指示する。

【参考書】
C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004 年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015 年）
松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012 年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、環境政策
＜研究テーマ＞国策と地方自治
＜主要研究業績＞
「 合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識 」『自治総研』2020 年（第 499 号 pp.86 - 122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略―浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に― 」『年報中部の経済と社会』2019 年（pp.69 - 80）
「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019 年（第 489 号 pp.45 - 82）
「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014 年（第 428 号 pp.29-46、第 429 号 pp.45-65、第 430 号 pp.35-53）
「災害廃棄物の処理をめぐって」『月刊自治研』2012 年（第 637 号 pp.56-65）
「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011 年 (pp.202-216)
「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008 年版』環境自治体会議編 2008 年 (pp.40-52)
『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" （Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 40%、in class contribution: 60%.

POL500A3

比較政治論 1

新川　敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治経済学の主要理論を学ぶ。

【到達目標】
ハーヴェイの資本主義理解の特徴を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 I	ハーヴェイ『資本の謎』前半
第 2 回	文献講読 II	ハーヴェイ『資本の謎』後半
第 3 回	文献講読 III	ハーヴェイ『資本主義の終焉』前半
第 4 回	文献講読 IV	ハーヴェイ『資本主義の終焉』後半
第 5 回	ディスカッション I	ハーヴェイの資本主義理解の特質について
第 6 回	文献講読 V	ハーヴェイ『新自由主義』前半
第 7 回	文献講読 VI	ハーヴェイ『新自由主義』後半』
第 8 回	文献講読 VII	ハーヴェイ『経済的理性の狂気』前半
第 9 回	文献講読 VIII	ハーヴェイ『経済的理性の狂気』後半
第 10 回	ディスカッション II	経済合理性のパラドックスとその超克
第 11 回	文献講読 IX	ハーヴェイ『コスモポリタニズム』前半
第 12 回	文献講読 X	ハーヴェイ『コスモポリタニズム』後半
第 13 回	文献講読 XI	資本主義の多様性論
第 14 回	報告	修論構想発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上記に示している通り。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学
＜研究テーマ＞福祉国家・日本政治・多文化主義
＜主要研究業績＞
『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）

『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）
『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】
This course aims to understand major theories of the contemporary political economy.

POL500A3

比較政治論２

新川　敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治経済学の主要理論を学ぶ。

【到達目標】
資本主義と民主主義の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 I	シュトレーク『時間かせぎの資本主義』前半
第 2 回	文献講読 II	シュトレーク『時間かせぎの資本主義』後半
第 3 回	文献講読 III	シュトレーク『資本主義はどう終わるのか』前半
第 4 回	文献講読 IV	シュトレーク『資本主義はどう終わるのか』後半
第 5 回	ディスカッション I	シュトレークの資本主義理解
第 6 回	文献講読 V	ロドリック『グローバリゼーション・パラドクス』前半
第 7 回	文献講読 VI	ロドリック『グローバリゼーション・パラドクス』後半
第 8 回	文献講読 VII	ロドリック『貿易戦争の政治経済学』前半
第 9 回	文献講読 VIII	ロドリック『貿易戦争の政治経済学』後半
第 10 回	報告	修論ドラフト報告
第 11 回	文献講読 IX	スーザン・ストレンジ『カジノ資本主義』前半
第 12 回	文献講読 X	スーザン・ストレンジ『カジノ資本主義』後半
第 13 回	文献講読 XI	ヘライー『国家とグローバル金融』
第 14 回	報告 II	修論報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上記の通り。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学

＜研究テーマ＞福祉国家・日本政治・多文化主義
＜主要研究業績＞
『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）
『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）
『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】
This course aims to understand major theories of the contemporary political economy.

POL500A3

連帯社会とサードセクター

中村圭介、柏木宏、伊丹　謙太郎

備考（履修条件等）：**連帯社会と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】
連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。
授業形式は未定。対面で行うか、Zoom によるオンライン形式で行うかは、初回授業の前に授業支援システムで知らせる。なお、Zoom によるオンライン形式で行う場合は、Zoom の ID・パスコードについては、初回授業前に学習支援　システムにに掲載する。
最終授業では、これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かについて、学生が各自報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第 2 回	NPO 活動（1）、（2）	NPO の実践家による講義
第 3 回	労働組合の活動（1）、（2）	労働組合の実践家による講義
第 4 回	協同組合の活動（1）、（2）	協同組合の実践家による講義
第 5 回	共生と連帯の社会をデザインする	外部講師による特別講義
第 6 回	労働組合の活動（3）、（4）	労働組合の実践家による講義
第 7 回	NPO の活動（3）、（4）	NPO の実践家による講義
第 8 回	協同組合の活動（3）、（4）	協同組合の実践家による講義
第 9 回	フィールドスタディ	NPO を訪問し、実態を学ぶ
第 10 回	労働組合の活動（5）、（6）	労働組合の実践家による講義
第 11 回	協同組合の活動（5）、（6）	協同組合の実践家による講義
第 12 回	NPO の活動（5）、（6）	NPO の実践家による講義
第 13 回	労働組合の活動（7）、協同組合の活動（7）	労働組合の実践家、協同組合の実践家による講義
第 14 回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。「リポート」（最終報告書）の作成は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
特に指定しない。
随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点が 60 %、授業への貢献が 20 %、最終報告 20 %。なお、平常点は、予習をしたうえで授業に出席しているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。最終報告は、提出されたレポートとその発表内容で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
非常勤講師、実践家に報告をしてもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
中村圭介
＜専門領域＞労使関係論、人事管理論
＜研究テーマ＞労働組合、労使関係、人事管理、共助と連帯
＜主要研究業績＞
・『地域から変える』教育文化協会、2021 年
・『労働組合の基礎』（共編著）、2021 年
・『壁を壊す－非正規を仲間に　新装版』教育文化協会、2018 年
伊丹謙太郎
＜専攻＞
協同組合論、公共哲学
＜研究テーマ＞
協同組合思想、協同組合運動史、デジタル経済と協同主義、
非営利組織連携論、賀川豊彦研究
＜主要業績＞
『協同組合 未来への選択』(共著) 日本経済評論社, 2014
柏木宏
＜専門領域＞ NPO 論、地域社会論、市民社会ガバナンス論
＜研究テーマ＞社会的企業、社会的協働、NPO プラットフォーム
＜主要研究業績＞
・『創造都市経済と都市地域再生』（共著）大阪公立大学共同出版会、2011 年
・『みんなで考える広域複合災害』（共著）大阪公立大学共同出版会、2013 年

【Outline (in English)】
In this course, students learn the concept of solidarity-based society and the roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs, and social enterprises.

POL500A3

立法学研究 1

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：**公共政策学・サステイナビリティ学「立法学研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巌太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。
【授業目的】
我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】
・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。
③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。

13-14　立法演習　提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方　第２版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.
Learning Objectives;
To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.
To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.
Granding Criteria/Policy;
The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.
The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500A3

自治体研究 1

土山　希美枝

備考（履修条件等）：**公共政策学「地方自治論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
今日的意味での日本の地方自治制度は、1947 年の日本国憲法・地方自治法の同時施行を起点とするが、地方自治の実態は、高度成長期の社会変動のなかで進む「自治体の政府化」によって展開していった。2000 年地方分権改革は、この「自治体の政府化」を反映する大きな地方自治制度改革であった。しかし、2020 年代の地方自治はなお、この制度改革を実態として生かしきれていないように見える。
本講座は、2000 年分権改革直前、また 2020 年間近の２つの地方自治・自治体論を読んで比較し、地方自治の今日的課題を検討する。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
・2000 年分権改革における地方自治と自治体改革の到達点を理解する
・こんにちの地方自治と自治体の状況と課題を理解する
・高度成長期以降の歴史的文脈で地方自治をとらえる視線を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第 2 回	高度成長期と「自治体の政府化」	テキストの理解の前提となる内容の講義
第 3 回	『自治体は変わるか』第１章	テキスト精読と解題
第 4 回	『自治体は変わるか』第２章	テキスト精読と解題
第 5 回	『自治体は変わるか』第３章、第４章	テキスト精読と解題
第 6 回	『自治体は変わるか』第５章	テキスト精読と解題
第 7 回	『自治体は変わるか』第６章	テキスト精読と解題
第 8 回	政『自治体は変わるか』第７章	テキスト精読と解題、テキスト全体の振り返り
第 9 回	『地方自治講義』はじめにと第１章	テキスト精読と解題
第 10 回	『地方自治講義』第２章	テキスト精読と解題
第 11 回	『地方自治講義』第３章	テキスト精読と解題
第 12 回	『地方自治講義』第４章	テキスト精読と解題

第 13 回 『地方自治講義』第５章　テキスト精読と解題
第 14 回 『地方自治講義』第６章　テキスト精読と解題、講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テキスト、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】
松下圭一『自治体は変わるか』岩波書店,1999 年。
今井照『地方自治講義』ちくま新書,2017 年。

【参考書】
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加：議論への参加（25 %）、コメント（25 %）の様子、授業の成果：授業内での報告（25 %）、期末レポート（25 %）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が科目の初年度であるため、反映するべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Policy is the "foundation of Itonami" for people living in today's society (urban society).
Japanese local governance system of today starts with the simultaneous enforcement of the Constitution Law and the Local Autonomy Law in 1947. However, the actual development of local governance was started with social strucure changing during the high-growth period, as "govermentalization of municipality".
The 2000 decentralization reform was a major reform of the local governance system that reflected this "govermentalization of municipality". However, local government in the 2020s still does not seem to make full use of this institutional reform.
In this lecture, we will read and compare the two textbooks of local autonomy / local government theories just before the 2000 decentralization reform and the 2020s. It'll shows us the current issues of local governance.
Learning Objectives;
- Understand the goals of local governance/goverment reform in 2000 decentralization reform
- Understand the situation and issues of today's local autonomy and local governments
- Cultivate a perspective to understand local governance in the historical context of the high-growth period and beyond
Learning activities outside of classroom;
- Completion of textbook and related papers/books
Grading Criteria /Policy;
- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500A3

公務員制度研究

森谷　明浩

備考（履修条件等）：**公共政策学と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治主導、官邸主導の下における政官関係の在り方が議論される今日の状況も踏まえつつ、日本の国家公務員制度について、国際比較（英米独仏）なども織り交ぜながら、その内容及び実態について考察する。

【到達目標】
日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後の国家公務員制度のあるべき姿について自ら考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行う。まず、日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観する。その上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度の概要などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況などについて説明するとともに、そのような制度設計に至った背景事情などの解説も行う。その中で、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向などについても言及していく。
各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では学生が取り上げたい個別のテーマを選んで、自らが考える問題点や今後考え得る方策などについて自由討議を行い、学生が今後更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回・第 2 回	公務員制度の全体像及び成立過程	日本の公務員制度の全体像を示すとともに、国家公務員法の成立過程を見る。
第 3 回・第 4 回	採用、昇進、人事評価	国家公務員の採用、昇進、人事評価について考える。
第 5 回・第 6 回	給与	国家公務員の給与の決定過程について考える。
第 7 回、第 8 回	服務・倫理、身分保障、公平審査、研修	国家公務員に課されている服務・倫理に関する規定、国家公務員制度の身分保障とそれを受けた救済制度である公平審査などについて考える。
第 9 回、第 10 回	退職管理、高齢期雇用、天下り	国家公務員の退職管理や天下りの問題、高齢期の職員の活用（定年年齢の引上げなど）について考える。
第 11 回、第 12 回	公務員制度改革	公務員制度改革に関するこれまでの流れについて検証し、公務員制度のあるべき姿について考える。
第 13 回、第 14 回	公務員制度の将来像	それまでの講義内容を振り返り、将来のあるべき公務員制度としてどのようなものが考えられるかについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
村松岐夫編著「公務員人事改革―最新米・英・独・仏の動向を踏まえて―」（２０１８年学陽書房）
村松岐夫編著「最新公務員制度改革」（２０１２年学陽書房）
西尾勝著「行政学［新版］」（２００１年有斐閣）
西尾隆著「公務員制」（行政学叢書⑪）（２０１８年東京大学出版会）
森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（２０１５年学陽書房）
人事院ＨＰ　https://www.jinji.go.jp/
内閣官房内閣人事局ＨＰ　https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html
内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部ＨＰ　https://www.gyoukaku.go.jp/koumuin/index.html

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に貢献しているか）
小論文（レポート）50 %（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】
学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにします。

【その他の重要事項】
　中央人事行政機関である人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。
　これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来のあるべき公務員像などについても幅広く議論していきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公務員制度
＜研究テーマ＞近年における我が国の公務員制度の動向
＜主要研究業績＞
森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（２０１５年学陽書房）（共著）
吉田耕三編著「公務員給与法精義第五次全訂版」（２０１８年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).
This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.
Your overall grade in this course will be decided based on the following
Short reports: 50%,in-class contribution: 50%

POL500A3

雇用・労働政策研究

濱口　桂一郎

備考（履修条件等）：**公共政策学・連帯社会「雇用労働政策研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公労使三者構成の審議会において労使団体と政府 (厚生労働省) の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】
現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第 3.4 回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第 5.6 回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第 7.8 回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第 9.10 回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12 回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14 回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構 (2018 年)
なお、刊行から若干時間が経っているため、アップデートした PDF ファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】
濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書 (2009 年)
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫 (2011 年)
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013 年）
濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014 年）
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書 (2015 年)
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書 (2020 年)
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書 (2021 年)
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。
http://hamachan.on.coocan.jp/

【成績評価の方法と基準】
参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
労働法政策

< 研究テーマ>
日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析
< 主要研究業績>
『EU の労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】
It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
： Grading will be decided based on short reports.

POL500A3

政策法務論

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：**公共政策学、サステイナビリティ学と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。
【授業目的】
現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】
・自治体政策法務のイメージをつかむ。
・条例案立案のポイントをつかむ。
・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
②本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府と GHQ の攻防	1.GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義
7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットで対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.
Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affiairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500A3

防災危機管理研究

鍵屋　一

備考（履修条件等）：**公共政策学と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災の発生以後、国土強靭化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】
①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形式☒対面授業
授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。
また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。
授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回・2 回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPT および中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第 3 回・4 回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークで KJ 法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第 5 回・6 回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第 7 回・8 回	災害時要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第 9 回・10 回	防災教育、ボランティア	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。
第 11 回・12 回	地域防災計画、防災条例、政策評価	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。
第 13 回・14 回	企業、行政等の事業継続（BC）	企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画が BCP であり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。
また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業では、PPT や論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】
鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005 年
鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019 年
令和 3 年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】
質疑への参加　70 %（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）
リアクションペーパー等　30 %

【学生の意見等からの気づき】
実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
地域防災、危機管理
＜研究テーマ＞
防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）
＜主要研究業績＞
・『都市災害を生き残る』「現代用語の基礎知識 2009」2008 年、自由国民社
・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020 年、東京都福祉保健財団
・『地域防災力強化宣言』2005 年、ぎょうせい

【Outline (in English)】
(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500A3

ジェンダー政治研究

中野　洋恵

備考（履修条件等）：**公共政策学「ジェンダー政策研究」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999 年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかし GGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は 100 位以下が続いている。2021 年 3 月に発表されたランキングは 156 ヶ国中 120 位で過去最低となった。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】
・21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて 5 年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
・2020 年 12 月に策定された「第 5 次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。
・現在の政策を理解した上で、国際的な動向も踏まえディスカッションにおいて課題を把握し、今後必要とされる改善策を提案する。
特に今年度はコロナの影響についても言及する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定である。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する
第 2 回	国内外の男女共同参画に関する動向を理解する	○第 2 次世界大戦以降の国際社会の動き 国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）　国際婦人年（1975 年）以降の世界女性会議　持続可能な開発目標（SDG s）世界経済フォーラムが発表する GGGI などから国際社会の変遷を捉える。 ○国内の動向 1975 年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、国内行動計画、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律などから国内の変遷を捉える。
第 3 回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①	1999 年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020 年 12 月に策定された第５次男女共同参画基本計画の 12 分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。
第 4 回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②	1999 年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020 年 12 月に策定された第５次男女共同参画基本計画の 12 分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。

第 5 回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革①	勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。 また、いわゆる女性の M 字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。
第 6 回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革②	女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。特に現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。
第 7 回	女性の活躍推進	003 年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において 2020 年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する（202030）」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クオータ制やポジティブアクションについて議論する。
第 8 回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデート DV、デートレイプドラッグ、JK ビジネス、AV 出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
第 9 回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデート DV、デートレイプドラッグ、JK ビジネス、AV 出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
第 10 回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。
第 11 回	教育・メディア②	意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。
第 12 回	新たな課題－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策①	東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。
第 13 回	新たな課題－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策②	また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、特に女性への影響が深刻であることが報告されている。リスクに対してどのように」対応すればいいのかを考える。
第 14 回	ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NWEC 実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html

【成績評価の方法と基準】
授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）
レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
多様な生活経験を持つ受講生がいるので、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジェンダー論
＜研究テーマ＞ジェンダーと家族
ジェンダーと教育・学習
＜主要研究業績＞
「教育と学習」『男女共同参画データブック 2015』男女共同参画統計研究会編　ぎょうせい　2015
『国際比較にみる再開の家族と子育て』（編著）ミネルヴァ書房　2010

【Outline (in English)】
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society
to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to
think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%

POL500A3

自治体福祉政策論

鏡　諭

備考（履修条件等）：**公共政策学と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在社会保障給付費は１００兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の４割近くを支弁している。自治体において、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。
今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

【到達目標】
2000 年に制度化された介護保険は、今や 10 兆円を超える規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を理解する。
キーワードは次の通り。
・介護保険制度の課題と市町村対応
・地域包括ケアの課題
・介護予防日常生活支援事業の可能性
・介護と医療の連携の課題
・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
・成年後見制度の効果と課題
上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業で、実施する。しかし、社会情勢により、対面授業が難しい場合は、ブレンド型授業を実施し、通学が困難な状況にも対応する、
また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。
授業においての質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。
さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。
各項目については、以下の通り。
・日本の将来予測から社会保障のあり方について
・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
・2006 年・2012 年・2015 年・2018 年制度改正の課題
・介護予防と地域支援事業の課題把握
・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援乃実態把握
・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション＆高齢者をとりまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(1) 社会変化と社会保障 (2) 自治体福祉政策の必然性 (3)2020 年介護保険改正後の議論
第 3.4 回	介護保険制度 (1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表　A (1) 措置から契約へ (2) 介護の社会化 (3) サービスの質の担保と効率（民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題） (4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5) 給付と負担・保険料決定の仕組み
第 5.6 回	介護保険制度 (2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)	発表　B (1) 介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3) 崩れた給付と負担のバランス (4) 自立支援介護とは何か
第 7.8 回	介護保険制度 (3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果	発表　C (1) 地域包括支援センターの創設 (2) 地域包括ケアとは何か (3) 介護予防・日常生活支援総合事業の課題 (4) 医療との連携の形 (5) 地域の見守りネットワーク
第 9.10 回	介護保険制度 (4) ☆介護サービス事業の現状と課題 (介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)	発表　D (1) 高齢者虐待・介護放棄 (2) 独居の認知症高齢者 (3) 生活支援の難しさ (4) 精神疾患者の支援
第 11.12 回	介護保険制度 (5) ☆施設サービスと地域密着サービス (在宅と施設高齢者サービスの選択)	発表　E (1) 高齢者福祉施設の種類と目的 (2) 特養を利用する人とは (3) ユニット個室化の課題 (4) 地域密着サービスとは (5) 住んでみたい施設づくり
第 13.14 回	高齢者ケア ☆判断能力を欠く状況における権利擁護 (介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)	発表　F (1) 成年後見制度の概要 (2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度） (3) 市民後見制度の課題 (4) 任意後見制度と法人後見 (5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
内容としては、テキストを読み問題をまとめる。
事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次回の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】
教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡諭編著、公人の友社刊、2017 年 4 月発行、定価 2600 円＋税を使用する。
さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】
「総介護社会」岩波新書刊　小竹雅子著
「総括・介護保険の 10 年～2012 年改正の論点～」公人の友社刊　鏡　諭編著
「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊　鏡　諭著

【成績評価の方法と基準】
授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、７０％以上の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を３０％の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】
PC。適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは、授業終了後実施する。
自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】
自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline (in English)】
授業概要（Course outline）:This course introduces We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments and The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person to students taking this course.
到達目標（Learning Objectives）： The goals of this course are to The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations, In local Government policy ”Benefits and Burdens”, and discuss the relationship between.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）： Final grade will be calculated according to the following process in-class report (70%), and in-class contribution.

POL500A3

自治体議会論

鍵屋　一

備考（履修条件等）：**公共政策学と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】
研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深堀りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形式☒対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991 年、4,644 円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】
江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】
討議への参加など平常点　70 %
振り返りシート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自治体、防災
＜研究テーマ＞自治体議会・議員の災害対策
＜主要研究業績＞紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500A3

ＮＰＯ論１

柏木　宏

備考（履修条件等）：**公共政策学「NPO 論」、連帯社会「NPO 論（現状と課題）Ｉ」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPO は、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本における NPO は、1998 年の NPO 法成立によって具体化、顕在化したといえるが、「NPO の先進国、アメリカ」では、1 世紀以上前から生成し、1960 年代以降、急速に発展している。本授業では、NPO に関する基本的な概念の整理、こうした日米における NPO の歴史的背景や意義、現状と課題などについて理解することを目的にする。

【到達目標】
上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、日米を中心にした NPO に関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の携帯などについて基本的な知識を幅広く獲得することができる。また、日本だけでなく、アメリカをはじめとした世界全体におけるコロナ禍における現状や課題を含めた、NPO の今日的課題や意義について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付する。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として 3 分の 2 程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを 2 回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、Zoom を使用し、オンライン授業形式で行う予定。Zoom の ID・パスコード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）を通じて連絡する。授業開始前または後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2 週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生の NPO に関する知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第 2 回	非営利と公益の概念整理	NPO にとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第 3 回	ボランティア活動と NPO	ボランティア活動と NPO 活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第 4 回	NPO 法の成立とその後	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がりと、その影響もあり 1998 年に成立した NPO 法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後の NPO の発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きやコロナ禍に NPO が直面した課題などを概観する。
第 5 回	世界の NPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界の NPO を概観する。
第 6 回	アメリカの NPO	世界最大の NPO セクターをもつアメリカで、NPO がどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、コロナ禍を含めたアメリカの NPO セクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第 7 回	授業のふりかえり	第 2 回から 6 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 8 回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第 9 回	NPO のサービス活動	NPO のサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPO のサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。
第 10 回	NPO のアドボカシー活動	日本とアメリカにおける NPO のサービス活動とアドボカシー活動について、その 実態について事例を含め、検討、理解する。
第 11 回	NPO の協働に関する理論の検討	NPO と行政・企業の関係の理論的な枠組みを検討する。
第 12 回	NPO 協働に関する事例研究	日米において NPO と行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。
第 13 回	授業のふりかえり	第 9 回から 12 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 14 回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の社会的役割や現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義に関する学習
事前にウェブにアップされた授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。
・発表に関する学習
授業期間中に 2 回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回 30 分程度、ふりかえりの作成が 1 回につき 1 時間（2 回なので 2 時間）、レポートのアウトラインは 2 時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は 10 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】
柏木宏編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020 年。
その他、受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」とレポート 50 %。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業になる可能性がある。オンライン事業の場合は、必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、学習支援視システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
NPO 論、NPO マネジメント
＜研究テーマ＞
日米の NPO、社会運動
＜主要研究業績＞
・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
・『企業経営と人権』解放出版社、1993 年
・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995 年
・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996 年
・『NPO インターンシップの魅力』共編著、アルク、1998 年
・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999 年
・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
・『NPO と政治』明石書店、2008 年
・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011 年

・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013 年
・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017 年
・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019 年
・『コロナ禍における日米の NPO』編著、明石書店、2020 年

【Outline (in English)】
Nonprofit organizations (NPOs) have two primary roles; to deal with social and community problems by providing services and to advocate these problems to solve them. By these works, NPOs take a leading role in developing civil society. NPOs in Japan were recognized in 1998 through the law promoting nonprofit activities. In the US, NPOs started more than a century ago and have developed rapidly since the 1960s. This class analyzes their significance and examines the history and current situations in the US and Japan.

POL500A3

ＮＰＯ論２

柏木　浩

備考（履修条件等）：**公共政策学「市民社会ガバナンス論」、連帯社会「NPO 論（現状と課題）Ⅱ」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NPO 論Ⅰを NPO に関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO 論Ⅱは NPO をどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPO のマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論、NPO の運営能力の基本を獲得する。なお、以上の点について、コロナ禍において、NPO のマネジメントに生じた変化を含めた考察を行う。

【到達目標】
上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、NPO マネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPO の運営状況の分析や経営を担う基礎的な能力を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付する。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として 3 分の 2 程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを 2 回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、Zoom を使用し、オンライン授業形式で行う予定。Zoom の ID・パスコード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）を通じて連絡する。授業開始前または後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2 週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生の NPO マネジメントの知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第 2 回	NPO マネジメントの特色	NPO のマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるかについて検討することを通じて、その特色を理解する。
第 3 回	ヒューマンリソースのマネジメント 1	NPO が活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第 4 回	ヒューマンリソースのマネジメント 2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第 5 回	資金のマネジメント 1	NPO の事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、非営利の社会的企業は、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。
第 6 回	資金のマネジメント 2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。

第 7 回	授業のふりかえり	第 2 回から 6 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる
第 8 回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第 9 回	プログラムプランニング	NPO の実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画立し、実施してくのかについて検討する。
第 10 回	戦略計画	変化の激しい現代において、NPO も内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第 11 回	NPO の設立	組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であれば NPO 法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO 法人の設立について考える。
第 12 回	NPO の世代交代	NPO においても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。営利企業との比較も含め、これらを進める手法を検討する。
第 13 回	授業のふりかえり	第 9 回から 12 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 14 回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の運営方法や運営の現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義に関する学習
事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付された授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。
・講義以外に関する学習
授業期間中に 2 回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回 30 分程度、ふりかえりの作成が 1 回につき 1 時間（2 回なので 2 時間）、レポートのアウトラインは 2 時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は 10 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年。

【参考書】
柏木宏編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020 年。
受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」とレポート 50 %。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、Zoom を利用できる環境の準備が求められる。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
NPO 論、NPO マネジメント
＜研究テーマ＞
日米の NPO、社会運動
＜主要研究業績＞
・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
・『企業経営と人権』解放出版社、1993 年
・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995 年
・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996 年
・『NPO インターンシップの魅力』共編著、アルク、1998 年
・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999 年
・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
・『NPO と政治』明石書店、2008 年
・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011 年
・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013 年
・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017 年
・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019 年
・『コロナ禍における日米の NPO』編著、明石書店、2020 年

【Outline (in English)】
This class focuses on how to manage a nonprofit organization. By learning management of its human resources, financial resources and planning methods, students could obtain basic skills to manage a nonprofit organization.

POL500A3

シンクタンク論

蒔田　純

備考（履修条件等）：**公共政策学、連帯社会と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】
・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。
特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話しいただく。
授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらう。
受講者には授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回講義時に口頭にて、あるいは、講義後にメール等にて、それに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第 2 回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第 3 回	国家と社会	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第 4 回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第 5 回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第 6 回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3 など
第 7 回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第 8 回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第 9 回	海外のシンクタンク②	欧州を中心に海外のシンクタンクについて
第 10 回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第 11 回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第 12 回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第 13 回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第 14 回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。準備学習については文献講読を基本とし、復習については、授業で示したシンクタンクに関する考え方を各自で現実の事象に当てはめ、その構造を把握する作業を行ってほしい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
Alex Abella, 2009. Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire, Mariner Books.
船橋洋一．2019.『シンクタンクとは何か―政策起業力の時代』中央公論新社.
飯尾潤．2007.『日本の統治構造』中央公論新社.
小池洋次（編著）．2010.『政策形成』ミネルヴァ書房.
宮田智之，2017.『アメリカ政治とシンクタンク―政治運動としての政策研究機関―』東京大学出版会.
Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.
Smith, James A. 1991. The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite, Free Press.
鈴木崇弘．2007.『日本に民主主義を起業する―自伝的シンクタンク論』第一書林.
鈴木崇弘．2011.「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.
鈴木崇弘・上野真城子．1993.『世界のシンク・タンク―「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.
鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005.『シチズン・リテラシー―社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版
Smith, James, 1993. The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite, Free Press.
Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.
建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史，2008『比較政治制度論』有斐閣.
横江公美，2008.『アメリカのシンクタンク　第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.
横江公美，2004.『第五の権力　アメリカのシンクタンク』文藝春秋.
Weaver, R., 2002. Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
出席・質疑・討論参加 40 %、レポート 30 %、プレゼンテーション 30 %
＜評価基準＞
質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力、問題提起性等
レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】
基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】
レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。
やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治過程、議会、利益団体、政治教育、政策分析
＜研究テーマ＞政治過程における民間アクターの役割、政策形成における政策ネットワークの役割、テクノロジーと政治、主権者教育の効果　など
＜主要研究業績＞
"A study of the functions of political appointees from a comparative perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 2021, https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/20578911211036943
「地方議員のなり手不足問題と直接民主制型の意思決定－ブロックチェーンを用いた新たな投票システムの検討－」『季刊行政管理研究』170 号、2020 年、pp.38-47.
『政治をいかに教えるか―知識と行動をつなぐ主権者教育―』弘前大学出版会、2019 年.
「政府－議会関係から見た行政組織編成権に関する一考察」『季刊行政管理研究』No.155, pp.29-39、2016 年.
「団体形成から見る政策ネットワークの変化－医薬品ネット販売の規制緩和を事例として－」『政治社会論叢』第 4 号、pp.55-70、2016 年.
“Chap.8, A Policy Analysis of the Japanese Diet from the Perspective of Legislative Supporting Agencies”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, 2015, pp.123-138.
『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013 年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship and nation-society relationship.
(Learning Objectives)
*Grasping roles and functions of internal and external thinktanks in the policy process.
*Understanding characteristics and problems of public-policy-related factors including policy process, political system, politico-administrative relation and nation-society relation through a perspective of thinktank.

*Gaining a capability to logically explain a causation between thinktanks and other political factors in the context of public policy based on the scientific thinking of "constructing hypothesis → verifying it".
(Learning activities)
Standard times for preparation and review is two hours per each.
In preparation, reading articles presented in references is required.
In review, a thinking training to apply some thoughts or theories about thinktanks presented in the classes to the real political phenomena for understanding their structures is required.
(Grading Criteria/Policy)
Attendance, discussion(proactivity, analytical ability, critical ability, proposing ability): 40%
Report(analytical ability, logicality, novelty, simplicity): 30%
Presentation(analytical ability, logicality, novelty, simplicity): 30%

POL500A3

国際政治の基礎理論 1

湯澤　武

備考（履修条件等）：**学部「国際政治学入門」、国際政治学「国際政治理論」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。
複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】
次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。
第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。
第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。
第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。
また、2 年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業計画や授業形態を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：国際政治理論とは	本講義の目的と概要の説明。理論とは何か。国際政治を理解するうえで、なぜ理論を学ぶ必要があるのか。
2	国際政治学の分析枠組み	分析レベルの枠組みと分析のアプローチについて
3	国際政治理論:リアリズム I	主に古典的リアリズムを考察する。
4	国際政治理論：リアリズム II + 事例研究	主に構造的リアリズム（防御的・攻撃的リアリズム）を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
5	国際政治理論：リベラリズム I	古典的リベラリズム（理想主義、社会的リベラリズム）を考察する。
6	国際政治理論 ：リベラリズム II + 事例研究	相互依存論、ネオリベラル制度論、民主平和論を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。

7	国際政治理論 コンストラクティビズム + 事例研究	アイデンティティ、信念、規範などの観念的要素が国際政治に及ぼす影響を考察する。事例研究として、コンストラクティビズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
8	中間レビュー	前半の諸理論のポイントを振り返る。
9	国際政治理論を使った国際政治の分析手法：応用編	国際政治を分析するうえで、異なる理論をどのように応用すべきなのか、その分析方法を理解する。
10	国際政治経済 (IPE) の理論 I	経済的国家主義（重商主義）と経済的自由主義を考察する。
11	国際政治経済 (IPE) の理論 II	ネオ・マルクス主義（従属論）、世界システム論を考察する。
12	国際政治経済 (IPE) の事例研究 I	事例研究として、発展途上国における開発問題を取り上げる。
13	国際政治経済 (IPE) の事例研究 II	事例研究として、経済的グローバリゼーションを取り上げる。
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、適宜参照されたい。
吉川直人、野口和彦 (編)『国際関係理論』第 2 版、勁草書房、2015 年
ジョセフ・ナイ・ジュニア『国際紛争：理論と歴史』原書第 10 版、有斐閣、2017 年
村田晃嗣、君塚直隆, 石川卓、栗栖 薫子、秋山信将（編）『国際政治学をつかむ』新版、2015 年
野林健、大芝亮、納家政嗣、山田敦、長尾悟『国際政治経済学・入門』第 3 版、有斐閣、2007 年
田中明彦、中西寛　(編)『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2006 年

【成績評価の方法と基準】
成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】
・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】
　授業で使用するパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードする。履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。資料は講義の重要ポイントを空白にするなど、あえて不完全な状態でアップロードする。講義に出席して、自ら空白欄を埋めるなどの努力をしてほしい。

【Outline (in English)】
This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL500A3

国際開発政策研究 1

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：**国際政治学「国際協力政策研究 1 」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際協力論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。
　報告対象とする文献については、2022 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。
他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL500A3

国際地域研究 1

熊倉　潤

備考（履修条件等）：**国際政治学「国際地域研究（中国）（1）」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】
本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。
授業形式は、ひとまず対面授業を想定する（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 3 回	毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 4 回	毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 5 回	毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 6 回	毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 7 回	毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 8 回	日中学生交流	日本と中国の政治、社会について、学部ゼミと合同で議論する
第 9 回	毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第 10 回	毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第 11 回	毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第 12 回	毛沢東時代（１０）	受講者の研究報告とディスカッション
第 13 回	毛沢東時代（１１）	受講者の研究報告とディスカッション
第 14 回	フィールドワーク（学外図書館での調査研修）	アジア経済研究所図書館を訪問しての実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志☒主☒『中☒关系史☒： 1917-1991』北京：新☒出版社、2007 年、55.80 元。

【参考書】
参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（５０％）、議論への参加度（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治、現代史
＜研究テーマ＞中ソ関係、民族問題
＜主要研究業績＞『民族自決と民族団結――ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020 年。

【Outline (in English)】
In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3

国際地域研究２

熊倉　潤

備考（履修条件等）：**国際政治学「国際地域研究（中国）（2）」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】
本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。
授業形式は、ひとまず対面授業とする（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	ポスト毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 3 回	ポスト毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 4 回	ポスト毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 5 回	ポスト毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 6 回	中国社会研究の専門家の講演	専門家の講演を通じて、中国社会への理解を深める
第 7 回	ポスト毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 8 回	ポスト毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 9 回	ポスト毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第 10 回	ポスト毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第 11 回	ポスト毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第 12 回	ポスト毛沢東時代（10）	受講者の研究報告とディスカッション
第 13 回	ポスト毛沢東時代（11）	受講者の研究報告とディスカッション
第 14 回	フィールドワーク（学外図書館での調査研修）	国会図書館を訪問しての実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志☒主☒『中☒关系史☒：1917-1991』北京：新☒出版社、2007 年、55.80 元。

【参考書】
参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（５０％）、議論への参加度（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治、現代史
＜研究テーマ＞中ソ関係、民族問題
＜主要研究業績＞『民族自決と民族団結――ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020 年。

【Outline (in English)】
In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3

国連・平和構築研究 1

弓削　昭子

備考（履修条件等）：**国際政治学「国連・平和構築研究 1 (国連組織)」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際機構論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today‘s world.

【到達目標】
In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat‘s role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General‘s role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN‘s relationship with regional actors

11	Civil society	UN's relationship with civil society actors
12	Private sector	UN's relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】
· Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations Second Edition, Oxford University Press, 2018.
· Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.
· United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】
· Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss, The "Third" United Nations, Oxford University Press, 2021.
· Stephen Browne and Thomas G. Weiss (ed.) Routledge Handbook on the UN and Development, Routledge Handbook, Routledge, 2021.
· Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.
· 日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連』国連研究第 22 号、国際書院、2021 年
· 日本国際連合学会（編）『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】
Class presentation and participation in discussion (50 %), final report（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】
International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

POL500A3

国際行政研究２

坂根　徹

備考（履修条件等）：**国際政治学「国際公共政策研究２」と合同**
実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際行政研究Ⅱは、国際公共政策研究Ⅱとの合併科目（同科目への乗り入れ科目）である。そのため、以下の各項目について、国際公共政策を国際行政と読み替えることにより、本科目の概要と目的を確認されたい。
本科目では、「国際公共政策分野： International Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】
本科目の到達目標は、国際公共政策について、複数の政策分野を取り上げ理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策分野	持続可能な開発 (SDGs) 政策についての検討
3	国際公共政策分野	地球環境・エネルギー政策についての検討
4	調査研究テーマの選定と検討	調査研究テーマの選定と調査の進め方の検討
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策分野	防災・人道・危機管理政策についての検討
7	国際公共政策分野	国際安全保障政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策分野	国際保健衛生政策についての検討
11	国際公共政策分野	国際教育・文化・電気通信政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。ただこれはあくまで平均であり、実際の必要時間は、様々な要素、特に割り当てられた発表やレポートの締め切りがいつかにより変動がある。各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。

【テキスト（教科書）】
福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EU と SDGs のグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020 年.

【参考書】
開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表・レポートを 50%、授業への積極的な貢献度（平常点）を 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの履修に必要な機器等。

【その他の重要事項】
上記の授業計画は、実際の授業の進度、履修生の数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。また、昨年度の大学院科目での履修生のオンライン希望やコロナ禍で得られた知見も踏まえて、オンラインにより実施予定である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際公共政策・国連研究・行政学等
＜研究テーマ＞国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
＜研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）＞
・「国連システム諸機関の財政の変容―加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第 20 号、国際書院、2019 年に所収）
・「国連 PKO の財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連―多元的視点からの再考』国連研究第 13 号、国際書院、2012 年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】
Main theme of this course (International Public Administration 2) is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations and final report submission due date.
Grading will be decided based on presentations and final report (50%), and in-class contribution (50%).

POL700A3

博士論文演習Ⅰ A

杉田　敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】
博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	チュートリアル 1	研究状況に沿った助言 1
第 2 回	チュートリアル 2	研究状況に沿った助言 2
第 3 回	チュートリアル 3	研究状況に沿った助言 3
第 4 回	チュートリアル 4	研究状況に沿った助言 4
第 5 回	チュートリアル 5	研究状況に沿った助言 5
第 6 回	チュートリアル 6	研究状況に沿った助言 6
第 7 回	チュートリアル 7	研究状況に沿った助言 7
第 8 回	チュートリアル 8	研究状況に沿った助言 8
第 9 回	チュートリアル 9	研究状況に沿った助言 9
第 10 回	チュートリアル 10	研究状況に沿った助言 10
第 11 回	チュートリアル 11	研究状況に沿った助言 11
第 12 回	チュートリアル 12	研究状況に沿った助言 12
第 13 回	チュートリアル 13	研究状況に沿った助言 13
第 14 回	チュートリアル 14	研究状況に沿った助言 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】
講義中に、読むべき文献をその都度指定する。

【参考書】
必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点による。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、さらに受講者とのコミュニケーションを密にし、必要な改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治理論
＜研究テーマ＞権力論
＜主要研究業績＞
「権力論」、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習Ⅰ B

杉田　敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】
博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	チュートリアル 1	研究状況に沿った助言 1
第 2 回	チュートリアル 2	研究状況に沿った助言 2
第 3 回	チュートリアル 3	研究状況に沿った助言 3
第 4 回	チュートリアル 4	研究状況に沿った助言 4
第 5 回	チュートリアル 5	研究状況に沿った助言 5
第 6 回	チュートリアル 6	研究状況に沿った助言 6
第 7 回	チュートリアル 7	研究状況に沿った助言 7
第 8 回	チュートリアル 8	研究状況に沿った助言 8
第 9 回	チュートリアル 9	研究状況に沿った助言 9
第 10 回	チュートリアル 10	研究状況に沿った助言 10
第 11 回	チュートリアル 11	研究状況に沿った助言 11
第 12 回	チュートリアル 12	研究状況に沿った助言 12
第 13 回	チュートリアル 13	研究状況に沿った助言 13
第 14 回	チュートリアル 14	研究状況に沿った助言 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてその都度指定する。

【参考書】
必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点による。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションをより深める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治理論
＜研究テーマ＞権力論
＜主要研究業績＞
権力論」、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ A

犬塚　元

備考（履修条件等）：**隔週開講**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし。授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点

【学生の意見等からの気づき】
ニーズやスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治思想史
＜研究テーマ＞政治思想史
＜主要研究業績＞ウェブサイト参考

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire important skills to complete a PhD dissertation.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ B

犬塚　元

備考（履修条件等）：**隔週開講**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし。授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点

【学生の意見等からの気づき】
ニーズとスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治思想史
＜研究テーマ＞政治思想史
＜主要研究業績＞ウェブサイト参照

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students improve academic skills.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ A

山口　二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点

【学生の意見等からの気づき】
院生との対話を深めていきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ B

山口　二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点

【学生の意見等からの気づき】
院生との対話を深めていきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ A

新川　敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のために必要な知識と技能の習得を目指す。

【到達目標】
博士論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文検討 I	同左
第 2 回	論文検討 II	同左
第 3 回	ディスカッション I	同左
第 4 回	論文検討 III	同左
第 5 回	論文検討 IV	同左
第 6 回	ディスカッション II	同左
第 7 回	論文検討 V	同左
第 8 回	論文検討 VI	同左
第 9 回	ディスカッション III	同左
第 10 回	論文検討 VII	同左
第 11 回	論文検討 VIII	同左
第 12 回	ディスカッション IV	同左
第 13 回	論文検討 IX	同左
第 14 回	論文検討 X	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆の準備

【テキスト（教科書）】
授業のなかで直接指示する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学
＜研究テーマ＞福祉国家・日本政治・多文化主義
＜主要研究業績＞
『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）
『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）
『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】
This class offers knwoledge and skills necessary for writing a doctoral thesis.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ B

新川　敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文執筆に必要な知識と技能の習得を目指す。

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文検討 I	同左
第 2 回	論文検討 II	同左
第 3 回	ディスカッション I	同左
第 4 回	論文検討 III	同左
第 5 回	論文検討 IV	同左
第 6 回	ディスカッション II	同左
第 7 回	論文検討 V	同左
第 8 回	論文検討 VI	同左
第 9 回	ディスカッション III	同左
第 10 回	論文検討 VII	同左
第 11 回	論文検討 VIII	同左
第 12 回	ディスカッション III	同左
第 13 回	論文検討 IX	同左
第 14 回	論文最終検討	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆

【テキスト（教科書）】
学生に直接指示する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学
＜研究テーマ＞福祉国家・日本政治・多文化主義
＜主要研究業績＞
『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）
『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）
『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】
This class offers knwoledges and skills necessary for writing a doctoral thesis.

POL500A3

政治学特別講義 1

杉田　敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。
対面で行う予定だが、感染症の状況次第では遠隔で実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
本講義は、学部における外書購読（英語）、及び大学院における政治理論研究 1 と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL500A3

政治学特別講義 2

杉田　敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度、指定する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
この講義は、学部における外書購読（英語）、及び大学院の政治理論研究 2 と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL600A4-1000

国際政治理論

湯澤　武

備考（履修条件等）：**学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論 1」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。
複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】
次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。
第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。
第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。
第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。
また、2 年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業計画や授業形態を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：国際政治理論とは	本講義の目的と概要の説明。理論とは何か。国際政治を理解するうえで、なぜ理論を学ぶ必要があるのか。
2	国際政治学の分析枠組み	分析レベルの枠組みと分析のアプローチについて
3	国際政治理論:リアリズム I	主に古典的リアリズムを考察する。
4	国際政治理論：リアリズム II + 事例研究	主に構造的リアリズム（防御的・攻撃的リアリズム）を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
5	国際政治理論：リベラリズム I	古典的リベラリズム（理想主義、社会的リベラリズム）を考察する。
6	国際政治理論 ：リベラリズム II + 事例研究	相互依存論、ネオリベラル制度論、民主平和論を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。

7	国際政治理論 コンストラクティビズム + 事例研究	アイデンティティ、信念、規範などの観念的要素が国際政治に及ぼす影響を考察する。事例研究として、コンストラクティビズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
8	中間レビュー	前半の諸理論のポイントを振り返る。
9	国際政治理論を使った国際政治の分析手法：応用編	国際政治を分析するうえで、異なる理論をどのように応用すべきなのか、その分析方法を理解する。
10	国際政治経済 (IPE) の理論 I	経済的国家主義（重商主義）と経済的自由主義を考察する。
11	国際政治経済 (IPE) の理論 II	ネオ・マルクス主義（従属論）、世界システム論を考察する。
12	国際政治経済 (IPE) の事例研究 I	事例研究として、発展途上国における開発問題を取り上げる。
13	国際政治経済 (IPE) の事例研究 II	事例研究として、経済的グローバリゼーションを取り上げる。
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、適宜参照されたい。
吉川直人、野口和彦 (編)『国際関係理論』第 2 版、勁草書房、2015 年
ジョセフ・ナイ・ジュニア 『国際紛争：理論と歴史』 原書第 10 版、有斐閣、2017 年
村田晃嗣、君塚直隆, 石川卓、栗栖 薫子、秋山信将（編）『国際政治学をつかむ』新版、2015 年
野林健、 大芝亮、 納家政嗣、 山田敦、 長尾悟『国際政治経済学・入門 』第 3 版、有斐閣、2007 年
田中明彦、中西寛　(編) 『新・国際政治経済の基礎知識』 有斐閣、2006 年

【成績評価の方法と基準】
成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】
・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】
　授業で使用するパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードする。履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。資料は講義の重要ポイントを空白にするなど、あえて不完全な状態でアップロードする。講義に出席して、自ら空白欄を埋めるなどの努力をしてほしい。

【Outline (in English)】
This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL600A4-1011

アジア国際政治史

福田　円

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、現代における東アジア諸国・地域の歴史について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、受講者が東アジア近現代史について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、特定の時期、諸国・地域について研究した文献を精読する。そして、精読した文献が東アジア近現代史を理解する上で、どのような意味を持つのかについて議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
今年度の授業においては、戦後東アジア国際政治史について、まず教員が講義を行う。その後、そのなかで特定の国の現代史について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明と文献の紹介
第 2 回	戦後東アジア国際政治史（1）	冷戦期の東アジア
第 3 回	戦後東アジア国際政治史（2）	デタント期の東アジア
第 4 回	戦後東アジア国際政治史（3）	新冷戦期の東アジア
第 5 回	戦後東アジア国際政治史（4）	ポスト冷戦期の東アジア
第 6 回	戦後東アジア国際政治史（5）	米中競争期の東アジア
第 7 回	戦後東アジア国際政治史（6）	グローバルな国際政治と東アジア国際政治史
第 8 回	文献精読（1）	各章担当者の報告と議論
第 9 回	文献精読（2）	各章担当者の報告と議論
第 10 回	文献精読（3）	各章担当者の報告と議論
第 11 回	文献精読（4）	各章担当者の報告と議論
第 12 回	文献精読（5）	各章担当者の報告と議論
第 13 回	文献精読（6）	各章担当者の報告と議論
第 14 回	まとめの議論	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の部分では、事前に指定する精読文献の該当部分および配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】
森聡・福田円編『入門講義　戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022 年
このほか履修者の顔ぶれを見て、精読する文献を決定する

【参考書】
田中明彦・川島真編『20 世紀の東アジア史』全３巻、東京大学出版会、2020 年
福田円『中国外交と台湾ー「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013 年

和田春樹ほか編『東アジア近現代通史』第７巻～第１０巻、岩波書店、2011 年
川島真･服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007 年

【成績評価の方法と基準】
授業における報告とディスカッションへの貢献度（５０％）、および期末レポート（５０％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは火曜３限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】
東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】
This course aims to introduce and analyze the history of international relations in East Asia since 1945.

POL600A4-1006

国際公共政策研究２

坂根　徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際行政研究Ⅱは、国際公共政策研究Ⅱとの合併科目（同科目への乗り入れ科目）である。そのため、以下の各項目について、国際公共政策を国際行政と読み替えることにより、本科目の概要と目的を確認されたい。
本科目では、「国際公共政策分野： International Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】
本科目の到達目標は、国際公共政策について、複数の政策分野を取り上げ理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策分野	持続可能な開発 (SDGs) 政策についての検討
3	国際公共政策分野	地球環境・エネルギー政策についての検討
4	調査研究テーマの選定と検討	調査研究テーマの選定と調査の進め方の検討
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策分野	防災・人道・危機管理政策についての検討
7	国際公共政策分野	国際安全保障政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策分野	国際保健衛生政策についての検討
11	国際公共政策分野	国際教育・文化・電気通信政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。ただこれはあくまで平均であり、実際の必要時間は、様々な要素、特に割り当てられた発表やレポートの締め切りがいつかにより変動がある。各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。

【テキスト（教科書）】
福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EU と SDGs のグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020 年.

【参考書】
開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表・レポートを 50%、授業への積極的な貢献度（平常点）を 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの履修に必要な機器等。

【その他の重要事項】
上記の授業計画は、実際の授業の進度、履修生の数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。また、昨年度の大学院科目での履修生のオンライン希望やコロナ禍で得られた知見も踏まえて、オンラインにより実施予定である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際公共政策・国連研究・行政学等
＜研究テーマ＞国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
＜研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）＞
・「国連システム諸機関の財政の変容―加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第 20 号、国際書院、2019 年に所収）
・「国連 PKO の財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連―多元的視点からの再考』国連研究第 13 号、国際書院、2012 年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】
Main theme of this course (International Public Administration 2) is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations and final report submission due date.
Grading will be decided based on presentations and final report (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A4-1007

国際協力政策研究 1

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：**政治学「国際開発政策研究 1」、公共政策学・サステナビリティ学「国際協力論」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。
　報告対象とする文献については、2022 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。
他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL600A4-1012

非伝統的安全保障研究

本多　美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障はもっとも重要視される価値のひとつであるが、その概念はもともと状況依存的であることから、国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がりを背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰が誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組む国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】
・変容する安全保障概念について理解する。
・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
・非伝統的安全保障を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
担当教員が理論の整理などを行ったあと、クラス⑥からは、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読（英書）を必須とする。報告の回数は受講者の人数による。
対面での授業を予定しているが、新型コロナ感染症の拡大状況によっては Zoom で授業を行う。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と講読文献についての説明、安全保障概念の変遷①
第 2 回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の変遷②
第 3 回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障研究の系譜
第 4 回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ I	理論と方法①
第 5 回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ II	理論と方法②
第 6 回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第 7 回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第 8 回	環境と安全保障	理論と事例
第 9 回	食糧と安全保障	理論と事例
第 10 回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第 11 回	人の移動と安全保障	理論と事例
第 12 回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第 13 回	組織犯罪と安全保障	理論と事例
第 14 回	テロリズムと安全保障	理論と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定された文献を必ず購読してから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Mely Caballero-Anthony, "Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond" (Columbia Univ Press, 2018)

【参考書】
Barry Buzan, Ole Wæver, and Jaap De Wilde, "Security: A New Framework for Analysis" (Lynne Rienner Publishers, 1997), Mely Caballero-Anthony, "An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach" (SAGE Publications, 2016), 山田満・本多美樹編著『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021 年）、篠田英朗『国際社会の秩序』(東京大学出版, 2007 年)。その他、授業内で随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表報告（40%）、議論への参加（10%）と期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連科目として、「地球規模課題政策研究」を秋学期に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について、国際機構論の視点から考察するものである。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞
主な著書として、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021 年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016 年）、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：「スマート・サンクション」の模索』（国際書院、2013 年）、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、"'Smart Sanctions' by United Nations and Financial Sanctions," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020),"Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating'universal'norms and values on the local,"Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), "The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論　活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論　総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline (in English)】
Who secures safety of whom from what kinds of threats and how? – Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to know the changes in security concepts from the historical perspective and to learn "securitization theory." With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. And states have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation, and displaced persons. States recognize those non-traditional issues as"threats"to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. This course analyzes non-traditional issues by using securitization theory to know usefulness and limitations of the theory.

POL600A4-0100

Academic Reading （初級）

アラン　メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】
Although the main focus will be on reading, the course will enable students to develop all four language skills: speaking, listening, writing and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.
* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.
If classes are conducted online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.
Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme II: College Life (continued)	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world
6	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science
7	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
13	Make-up Class (if necessary)	Reading on a topical global political issue.
14	Make-up class (if necessary)	Reading on a topical global political issue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this course.

【参考書】
Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library / bookshop.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.
Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】
None

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
English Language Education.
Environmental Politics.
＜研究テーマ＞
Environmental Politics
＜主要研究業績＞
The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】
The length and level of difficulty of the selected reading materials will increase as the course proceeds. Students will be expected to have thoroughly read specific reading materials before each lesson, and will be encouraged to engage in an active analysis and evaluation of those materials during class time.
Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.
Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0101

Academic Reading （上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】
The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第 2 回	Reading Preparation Discussions	Reading practice
第 3 回	Reading Assignment Discussions	Reading Practice
第 4 回	Reading Tasks Discussions	Reading exercises
第 5 回	Reading abstracts Discussions	Reading exercises
第 6 回	Reading tasks Discussions	Reading tools
第 7 回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第 8 回	Reading articles Discussions	Reading tasks
第 9 回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第 10 回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第 11 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 12 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 13 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 14 回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this course

【参考書】
Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】
30% Advanced academic reading and negotiation.20% Action Plans on global and local problems30% Active class participation and homework.20% Final Essay Exam

【学生の意見等からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare papers, action plans and presentations on various topics and learn from each other.

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
n/a

【担当教員の専門分野等】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This level of reading is advanced and is meant to make the student read and understand complex texts. Different reading material will be provided and skills taught.

POL600A4-0102

Thesis Writing （初級）

アラン　メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is the lower-level G-GAP Thesis Writing course.

【到達目標】
The course aims to give students the necessary tools to be able to write in a precise and logical manner in English.They will be challenged to construct ideas and arguments in a logical manner, and to employ critical thinking skills when considering a range of contemporary global political issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities.
* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.
Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction. Working on the thesis statement.
4	The Writing Process III	Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language
14	Academic Style III	Synonyms and modal verbs.
	Course Wrap up	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this course.

【参考書】
Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments
40% Report
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】
None

【その他の重要事項】
This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
English Language Education.
Environmental Politics.
＜研究テーマ＞
Environmental Politics
＜主要研究業績＞
The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】
The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English.
Grading criteria:
60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments
40% Report
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0103

Thesis Writing （上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】
The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第 2 回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第 3 回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第 4 回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第 5 回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第 6 回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第 7 回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第 8 回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第 9 回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第 10 回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第 11 回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第 12 回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第 13 回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results
第 14 回	Participial Phrases Course Review and Evaluation	How to make your sentences more powerful and richer Summary of ideas covered and individual conferences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this course

【参考書】
Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.
The final Thesis product will comprised 50% of the final grade

【学生の意見等からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.
The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
n/a

【担当教員の専門分野等】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

POL600A4-0104

Presentation & Debate（初級）

アラン　メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is the lower-level G-GAP Presentation and Debate course.
The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given advice on how to give academic presentations, Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】
This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities.The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.
By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.
* Important: Depending upon the COVID-19 situation,part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.
Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language,content. Organizing,explaining and supporting opinions.Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
13	Presentation and/or Debate	Continuation of previous lessons.
14	Course wrap up	Reflection of progress made during the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this class.

【参考書】
All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】
A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.
Class participation 20%.
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】
None.

【その他の重要事項】
Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
English Language Education.
Environmental Politics.
＜研究テーマ＞
Environmental Politics
＜主要研究業績＞
The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】
The emphasis throughout the will be on the active engagement by students in all aspects of the course.To this end, thorough preparation and a willingness to participate actively at all stages of any given debate and/or presentation will be expected.
The final grade will be based upon:
i.A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.
ii.Class participation 20%.
Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0105

Presentation & Debate（上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】
For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification,
research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第 2 回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第 3 回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第 4 回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第 5 回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第 6 回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第 7 回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第 8 回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第 9 回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第 10 回	Problem solving presentations	Problem solving presentations
第 11 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 12 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 13 回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第 14 回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
There is no set text for this course.

【参考書】
Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】
20% First In-Class debate and presentation.
20% Second In-Class debate and presentation.
20% Third In-Class debate and presentation.
20% Fourth In-Class debate and presentation.
20% Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other. The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
n/a

【担当教員の専門分野等】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

POL600A4-2200

国連・平和構築研究１（国連組織）

弓削　昭子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today‘s world.

【到達目標】
In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat‘s role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General‘s role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN‘s relationship with regional actors
11	Civil society	UN‘s relationship with civil society actors
12	Private sector	UN‘s relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】
· Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations Second Edition, Oxford University Press, 2018.
· Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.
· United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】
· Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss, The "Third" United Nations, Oxford University Press, 2021.
· Stephen Browne and Thomas G. Weiss (ed.) Routledge Handbook on the UN and Development, Routledge Handbook, Routledge, 2021.
· Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.
· 日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連』国連研究第 22 号、国際書院、2021 年
· 日本国際連合学会（編）『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】
Class presentation and participation in discussion (50 %), final report（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】
International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today‘s world.

POL600A4-2202

国際公共調達研究 1

坂根　徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際公共調達政策 1 では、「日本の国際公共調達政策 International Public Procurement Policy of Japan」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】
本科目の到達目標は、国際公共調達政策について、特に日本の公共調達における国際的側面に焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
まずガイダンスで本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、日本の行政や日本の公共調達の課題について事例と対策を検討し、その公共調達について、WTO 政府調達協定や ODA における公共調達などの国際的な側面を検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	日本の行政	日本の公共調達を論じる前提として日本の行政の検討
3	日本の公共調達における課題	日本の公共調達における問題事例やその背景についての検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	日本の公共調達における課題への対策 1	日本の公共調達における課題への組織的側面の対策
7	日本の公共調達における課題への対策 2	日本の公共調達における課題への実施手法の側面の対策
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	WTO 政府調達協定と日本	WTO 政府調達協定と日本における適用
11	日本の ODA における公共調達	日本の ODA における公共調達についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。ただこれはあくまで平均であり、実際の必要時間は、様々な要素、特に割り当てられた発表やレポートの締め切りがいつかにより変動がある。各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表・レポートを 50%、授業への積極的な貢献度（平常点）を 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの履修に必要な機器等。

【その他の重要事項】
上記の授業計画は、実際の授業の進度、履修生の数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。また、昨年度の大学院科目での履修生のオンライン希望やコロナ禍で得られた知見も踏まえて、オンラインにより実施予定である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際公共政策・国連研究・行政学等
＜研究テーマ＞国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
＜研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）＞
・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGO の役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第 10 号、国際書院、2009 年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)
・「国連 PKO における民間企業の役割と課題―調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第 35 巻第 2 号、内外出版、2008 年に所収）

【Outline (in English)】
Main theme of this seminar (International Public Procurement Policy 1) is to learn and consider about international public procurement policy of Japan. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various public procurement policies.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations and final report submission due date.
Grading will be decided based on presentations and final report (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A4-2211

持続可能な開発のための教育（ESD）

弓削　昭子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, the students will examine the various elements of the 2030 Agenda for Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) as well as education for sustainable development (ESD). The role of various stakeholders including governments, international organizations, civil society, the private sector, and the academic community in the implementation of SDGs will be analyzed with a view to strengthening partnerships among them to accelerate SDGs implementation. The students will also explore how they can contribute to the achievement of the SDGs.

【到達目標】
The students will deepen their understanding of the 2030 Agenda and SDGs and key issues related to its implementation. They will examine how they can participate towards the achievement of SDGs in concrete terms and will take actions accordingly. Through presentations and discussion in English, the students will also improve their English language proficiency thereby enhancing dialogue and action at the global level in SDGs implementation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to the 2030 Agenda and the SDGs. Classes will focus on analysis of different aspects of SDGs as well as implementation issues and role of different actors through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study SDG-related materials produced by the UN and other countries and international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Meaning, elements, and evolution of ESG
2	Meaning of sustainable development	Evolution of concept of sustainable development
3	Issues related to sustainable development	Global Action Program of ESD
4	SDGs issues	Critical issues for SDGs implementation
5	SDGs issues (continued)	Critical issues for SDGs implementation
6	Poverty	SDGs and poverty eradication
7	Human rights	SDGs and human rights
8	Environment and climate change	SDGs and environment and climate change
9	Disaster reduction	SDGs and disaster reduction
10	Gender issues	SDGs and gender
11	Peaceful societies	SDGs and peace and security
12	Global partnerships	SDGs and global partnerships
13	Human resources	SDGs and human resources
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】
· Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), International Development – ideas, experience & prospects. New York: Oxford University Press, 2014.
· United Nations, Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development, 2015.
· United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.
· Documentation of the UN and other sources will be distributed in class.

【参考書】
· Raj M. Desai, Hiroshi Kato, Homi Kharas, John W. McArthur (ed.), From Summits to Solutions: Innovations in Implementing the Sustainable Development Goals, Brookings Institution Press, 2018.
· United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2019: Beyond income, beyond averages, beyond today: Inequalities in human development in the 21st century, New York, United Nations Publications, 2019.
・日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連　SDGs の進歩と課題』（国際書院　2021 年）

【成績評価の方法と基準】
Class presentation and participation in discussions (50%), final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】
No particular points to note

【その他の重要事項】
As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to sustainable development.

【担当教員の専門分野等】
International development and peacebuilding, international organizations.

【Outline (in English)】
As written above.

POL600A4-2222

地球規模課題政策研究

本多　美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、国際機構論の視点から、国際機構、地域的機構、企業、市民社会などの重要な行為主体（アクター）が、国際社会の秩序を回復・維持するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのか、あるいは機能してこなかったのかについて考察する。授業では安全保障をめぐる問題、開発問題、貧困問題、環境問題、感染症問題などの地球規模の問題（グローバル・イシューあるいはトランスナショナル・イシュー）を取り上げ、それらを解決するための各アクターの役割と機能、政策、課題について考察する。その際に、各アクター間の協働と確執について注目し、各問題領域で形成されつつある「ガバナンス」の現状と今後の課題を展望する。

【到達目標】
・時代とともに変容してきた国際機構、企業、市民社会の役割・機能についての知識を身に付ける。
・地球規模の問題を解決するために、協働と確執を繰り返しながら取り組むさまざまなアクターの政策と活動について理解する。
・国際社会が直面する地球規模の問題に対して自分の問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めるが、受講者間で議論する時間を毎回設ける。
対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては Zoom を利用して行う。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と進め方
第 2 回	国際社会の平和と安全への協働①	国連とその他の国際機構の協力
第 3 回	国際社会の平和と安全への協働②	国際機構と企業、市民社会の協力
第 4 回	国連による集団安全保障①	軍事的措置と非軍事的措置
第 5 回	国連による集団安全保障②	平和構築
第 6 回	核不拡散	政策と実践
第 7 回	軍備管理と軍縮	政策と実践
第 8 回	人権と民主主義	人権の国際的保障をめぐる政策と実践
第 9 回	人の移動	難民・避難民、就労移民をめぐる政策と実践
第 10 回	感染症	政策と実践
第 11 回	開発協力①	政策と実践
第 12 回	開発協力②	政策と実践
第 13 回	環境保護	政策と実践
第 14 回	資源の管理	政策と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
詳しくは授業内で提示する。

【参考書】
渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論　総合編』国際書院、2015 年。
吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論　活動編』国際書院、2021 年。
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内での議論への参加（30 %）と期末レポート（70 %）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連科目として、「非伝統的安全保障研究」を春学期に開講する。「非伝統的安全保障研究」は、伝統的安全保障との考え方の違いや分析アプローチの違いに重きを置いた内容であり、「人間の安全保障」や「保護する責任」など国際規範についてもより深く考察する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞
主な著書として、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021 年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016 年）、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：「スマート・サンクション」の模索』（国際書院、2013 年）、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、"'Smart Sanctions' by United Nations and Financial Sanctions," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020),"Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating'universal'norms and values on the local,"Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), "The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論　活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論　総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline (in English)】
The international community faces diversified transnational issues such as security issues, poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. No single nation can control them anymore. And those issues cannot be understood within the nation-centered narratives. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified actors have made efforts to tackle with the issues. Students will know that nations make contributions to the settlement of those issues in cooperation with regional and international institutions, businesses, civil society, and other entities. These efforts and social movements by the diversified actors can be called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate and manage "global governance."

POL600A4-2302

アジア統合論

福田　円

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アジア諸国の地域協力と統合について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、受講者がアジア諸国の地域協力や統合について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、同地域の協力や統合について論じた近年の学術書を精読し、議論する。そして、同地域における地域協力や統合の課題を理解し、地域協力のよりよいあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業においては、アジアにおける地域協力・統合の現状と、中国の台頭が地域協力におよぼす影響についてまず教員が講義を行う。その後、東アジア（またはアジア太平洋）の地域協力、中国と周辺諸国との関係、中国の地域協力に対する姿勢について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第 2 回	文献精読の準備（1）	アジア地域統合の歴史と現状
第 3 回	文献精読の準備（2）	アジア地域統合の歴史と現状
第 4 回	文献精読の準備（3）	アジア地域統合の歴史と現状
第 5 回	文献精読（1）	各章担当者の報告と議論
第 6 回	文献精読（2）	各章担当者の報告と議論
第 7 回	文献精読（3）	各章担当者の報告と議論
第 8 回	文献精読（4）	各章担当者の報告と議論
第 9 回	文献精読（5）	各章担当者の報告と議論
第 10 回	文献精読（6）	各章担当者の報告と議論
第 11 回	文献精読（7）	各章担当者の報告と議論
第 12 回	文献精読（8）	各章担当者の報告と議論
第 13 回	ディスカッション（1）	アジア地域協力と中国
第 14 回	ディスカッション（2）	アジア地域協力の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の部分では、事前に指定する配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】
精読文献以外には指定しない。以下の参考書は精読文献の候補でもある。また、文献精読を発展させるために、別途参考論文を配布することもある。

【参考書】
木村福成『これからの東アジア-保護主義の台頭とメガ FTAs』文眞堂、2020 年
大庭三枝編『東アジアのかたち』千倉書房、2016 年
Katzenstein, Peter J., A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium, Cornell University Press,2015
大庭三枝『重層的地域としてのアジア』有斐閣、2014 年
寺田貴『東アジアとアジア太平洋』東京大学出版会、2013 年
P.J カッツェンスタイン『世界政治と地域主義−− 世界の上のアメリカ、ヨーロッパの中のドイツ、アジアの横の日本』書籍工房早山、2012 年

【成績評価の方法と基準】
授業における報告とディスカッションへの貢献度（５０％）、および期末レポート（５０％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは火曜３限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】
東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】
This course aims to introduce and analyze the current state of regional cooperation and integration in Asia.

POL600A4-2308

対外政策研究（朝鮮半島）（１）

権　鎬淵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、韓国の対外政策を分析する。
まず、歴代政権が目指していた国家的な目標がどう変化してきたのかを分析し、それに伴いどこに対外政策の目標が置かれてきたのかをみる。まず、北朝鮮に対する政策として、太陽政策・北風政策・放置政策の論理と具体的な中身を取り上げ、韓国の歴代政権の政策がどのように変化してきたかを考察する。また、対米、対日、対中、対ロ政策において、どのような政策を追求し、どういう成果を得てきたのかを検討する。

【到達目標】
韓国の対外政策の中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。
　授業の形態はコロナ感染状況に左右されるが、４月はオンライン授業、5 月からは対面授業を原則とする。（対面授業でもオンライン中継が併行されるハイフレックス授業になる）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	過去のリベラル政権の基本目標と政策方向	金大中政権・盧武鉉・文在寅政権
第 2 回	保守政権の基本目標と政策方向	李明博政権・朴槿恵政権
第 3 回	新政権の基本目標と政策方向	
第 4 回	対米政策１	リベラル政権
第 5 回	対米政策２	保守政権
第 6 回	対中国政策１	リベラル政権
第 7 回	対中国政策	保守政権
第 8 回	対日本政策１	リベラル政権
第 9 回	対日本政策	保守政権
第 10 回	対ロシア政策	
第 11 回	対途上国政策	
第 12 回	対北朝鮮政策１	軍事政策
第 13 回	対北朝鮮政策２	南北交流、宥和政策
第 14 回	対北朝鮮政策３	有事対策、統一対策、脱北者政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に 2 回ほど熟読した上、ほかの院生と教員と討論したい論点や疑問点を A4 用紙にまとめ、毎回の授業初めに提出すること。

【テキスト（教科書）】
開講の際に開示する

【参考書】
趙 世瑛　日韓外交史: 対立と協力の 50 年 (平凡社新書) 2015 年

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な貢献度（出席等）40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】
This lecture analyzes South Korea's foreign policy.
First, we will analyze how the national goals of previous administrations have changed, and then look at where the priority of foreign policy has been set. First, as a policy for North Korea, we will take up the logic and contents of the Sunshine Policy, North Wind Policy, and Do-nothing Policy, and consider how the policies of successive South Korean governments have changed. In addition, we will consider what kind of policies have been pursued and what kind of results have been achieved in the policies toward the United States, Japan, China, and Russia.

POL600A4-2309

対外政策研究（朝鮮半島）（2）

権　鎬淵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、北朝鮮の対外政策を分析する。まず、北朝鮮独裁者の個人研究と、朝鮮労働党、行政府、軍の権力機関をつかんだ上に、軍事力・経済状況実態を分析する。それから、対韓国、対米国、対中国、対日本の対外政策を比較検討する。

【到達目標】
北朝鮮の対外政策の骨子とその構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。
授業の形態はコロナ感染状況にもよるが、秋学期は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	金日成、金正日について	
第 2 回	金正恩と権力機関について	
第 3 回	兵役制度、教育制度の分析	
第 4 回	経済事情 1	経済システム
第 5 回	経済事情 2	自生的市場経済の台頭は可能か
第 6 回	軍事力の状況 1	核とミサイル
第 7 回	軍事力の状況 2	通常戦力
第 8 回	対内政策	独裁権力維持システム
第 9 回	対韓国政策 1	政治・軍事的な側面
第 10 回	対韓国政策 2	経済社会的な側面
第 11 回	対米国政策	
第 12 回	対中国政策	
第 13 回	対日本政策	
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に 2 回ほど熟読した上、ほかの院生と教員と討論したい論点や疑問点を A4 用紙にまとめ、毎回の授業初めに提出すること

【テキスト（教科書）】
開講の際に開示する

【参考書】
斎藤直樹『北朝鮮機器の歴史的な構造』論創社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な貢献度（出席含む）40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】
This lecture analyzes North Korea's foreign policy. First, we will analyze the actual situation of military power and economic situation after the individual research of the North Korean dictator, the Workers' Party of Korea, the government, and the power institutions of the military. Then, we will compare DPRK's foreign policies for the United States, China, and Japan.

POL600A4-2310

ロシア政治外交研究 1

溝口　修平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1980 年代から 90 年代にかけて、世界中で民主化する国が増加し、その現象は民主化の「第三の波」と呼ばれました。しかし、現在ではむしろロシアや中国をはじめとして多くの国で権威主義体制が強化されていることに注目が集まっています。本科目では、政治体制の類型や変動に関する比較政治学の理論的研究を学ぶとともに、旧ソ連諸国を中心とするポスト社会主義諸国の政治変動が比較政治学の分野でどのように説明されてきたのかを学日ます。

【到達目標】
１　現代の権威主義体制がどのような特徴を持ち、どのように維持されているかを理論的に説明することができる。
２　21 世紀に入って、旧ソ連諸国の政治体制に起きた変化がなぜ起きたのか、そして国ごとの発展経路の違いがなぜ生じているのかを理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による簡単な講義の後に、比較政治学の理論や旧ソ連諸国の政治変動に関する著作や論文（主に英語文献）を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業は進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第 2 回	民主化研究とその問題点	1980 年代以降の民主化研究の概要に関する講義
第 3 回	権威主義という概念	フランツ（2021）第 1 章を読む
第 4 回	権威主義体制の世界的拡大	フランツ（2021）第 2,3 章を読む
第 5 回	権威主義的統治のあり方	フランツ (2021) 第 4,5 章を読む
第 6 回	権威主義体制の誕生と持続	フランツ（2021）第 6,7 章を読む
第 7 回	権威主義体制の崩壊	フランツ（2021）第 8,9 章を読む
第 8 回	民主主義の後退と権威主義の強化	世界中で民主主義の後退が生じているという主張について
第 9 回	旧ソ連諸国の政治変動（1）	旧ソ連諸国の多様な政治体制をどのように説明するか？
第 10 回	旧ソ連諸国の政治変動（2）	旧ソ連諸国の多様な政治体制をどのように説明するか？
第 11 回	カラー革命（1）	2000 年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）の原因について
第 12 回	カラー革命（2）	2000 年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）がもたらした帰結について
第 13 回	ロシアの政治体制（1）	ロシアの政治体制の変化と安定について
第 14 回	ロシアの政治体制（2）	ロシアの政治体制の変化と安定について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
エリカ・フランツ『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社、2021 年。
その他の授業で扱う論文は、できる限り dropbox などを使って受講者の間で電子ファイルを共有します。

【参考書】
久保慶一ほか『比較政治学の考え方』有斐閣、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
提出課題の完成度（30 %）
文献に関する報告（20 %）
授業中の討論への貢献（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な英語論文を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交
＜研究テーマ＞旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割
＜主要研究業績＞
①「大統領任期延長の正統性ー旧ソ連諸国における長期独裁政権の誕生」『国際政治』第 201 号、114-129 頁、2020 年。
②『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016 年。
③『連邦制の逆説？ ――効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016 年（共編著）。
など

【Outline (in English)】
Why do some authoritarian countries endure, but others collapse? What will happen once an autocratic leader is ousted by a coup or a popular protest movement? These are the questions explored in this course. The course offers a comparative outlook to the study of authoritarianism, focusing on political institutions such as election, the factors sustaining or breaking it down, as well as global resilience of authoritarianism. The course will then analyze the political dynamics of authoritarian regimes in the former Soviet countries.
All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading for each week. In addition, each student will be asked at least once to present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2311

ロシア政治外交研究２

溝口　修平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ロシアは欧米諸国との対立を深めています。クリミア併合に代表されるように旧ソ連諸国に対する介入を強める一方で、これらの国々でおこる政治変動に対しては「西側の陰謀」として強く反発しており、国際社会からは「国際秩序への挑戦者」とみなされています。
このようなロシアの行動は、国際社会からは民主主義や人道的介入などの「国際規範」に反するとされますが、それではロシア自身は、どのような論理によって自身の行動を正当化しているのでしょうか。本科目では、ロシア外交に関する近年の主要文献を購読しながら、この問題について考察します。

【到達目標】
1) 冷戦終結後のロシア外交の変化について説明することができる。
2) 近年の欧米諸国との対立について、ロシアがどのような論理に基づいて行動しているかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による簡単な講義の後に、ロシア外交に関する著作や論文（主に英語文献）を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業は進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第 2 回	ロシア外交の基礎	冷戦終結後のロシア外交の展開に関する講義
第 3 回	ロシアの 2 つの「主権」観	関連する英語論文を読む
第 4 回	ロシアと欧米諸国との関係（1）	関連する英語論文を読む
第 5 回	ロシアと欧米諸国との関係（2）	関連する英語論文を読む
第 6 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（1）	Toal(2017), Introduction を読む
第 7 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（2）	Toal(2017), ch.1 を読む
第 8 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（3）	Toal(2017), ch.2 を読む
第 9 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（4）	Toal(2017), ch.3 を読む
第 10 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（5）	Toal(2017), ch.4 を読む
第 11 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（6）	Toal(2017), ch.5 を読む
第 12 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（7）	Toal(2017), ch.6 を読む
第 13 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（8）	Toal(2017), ch.7 を読む
第 14 回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（9）	Toal(2017), ch.8 を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Gerald Toal, (2017), Near Abroad: Putin, the West, and the Contest over Ukraine and the Caucasus, Oxford: Oxford U.P.

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題の完成度（30 %）
文献に関する報告（20 %）
授業中の討論への貢献（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な英語論文を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交
＜研究テーマ＞旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割
＜主要研究業績＞
①「大統領任期延長の正統性－旧ソ連諸国における長期独裁政権の誕生」『国際政治』第 201 号、114-129 頁、2020 年。
②『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016 年。
③『連邦制の逆説？ ――効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016 年（共編著）。
など

【Outline (in English)】
This course aims to understand the logic of Russia's foreign policy, which has experienced deep conflict with the "standard" norms of the international community, such as democracy and humanitarian intervention.
All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading
for each week. In addition, each student will be asked at least once to
present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2312

国際地域研究（中国）（１）

熊倉　潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】
本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。
授業形式は、ひとまず対面授業を想定する（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 3 回	毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 4 回	毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 5 回	毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 6 回	毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 7 回	毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 8 回	日中学生交流	日本と中国の政治、社会について、学部ゼミと合同で議論する
第 9 回	毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第 10 回	毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第 11 回	毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第 12 回	毛沢東時代（１０）	受講者の研究報告とディスカッション
第 13 回	毛沢東時代（１１）	受講者の研究報告とディスカッション
第 14 回	フィールドワーク（学外図書館での調査研修）	アジア経済研究所図書館を訪問しての実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志☒主☒『中☒关系史☒： 1917-1991』北京：新☒出版社、2007 年、55.80 元。

【参考書】
参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（５０%）、議論への参加度（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治、現代史
＜研究テーマ＞中ソ関係、民族問題
＜主要研究業績＞『民族自決と民族団結――ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020 年。

【Outline (in English)】
In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2313

国際地域研究（中国）（２）

熊倉　潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】
本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。
授業形式は、ひとまず対面授業とする（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	ポスト毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 3 回	ポスト毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 4 回	ポスト毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 5 回	ポスト毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 6 回	中国社会研究の専門家の講演	専門家の講演を通じて、中国社会への理解を深める
第 7 回	ポスト毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 8 回	ポスト毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 9 回	ポスト毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第 10 回	ポスト毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第 11 回	ポスト毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第 12 回	ポスト毛沢東時代（１０）	受講者の研究報告とディスカッション
第 13 回	ポスト毛沢東時代（１１）	受講者の研究報告とディスカッション
第 14 回	フィールドワーク（学外図書館での調査研修）	国会図書館を訪問しての実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志☒主☒『中☒关系史☒：1917-1991』北京：新☒出版社、2007 年、55.80 元。

【参考書】
参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（５０％）、議論への参加度（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治、現代史
＜研究テーマ＞中ソ関係、民族問題
＜主要研究業績＞『民族自決と民族団結――ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020 年。

【Outline (in English)】
In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2318

国際地域研究（東南アジア）（１）

浅見　靖仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生が社会科学的な地域研究を行うのに必要な理論やスキルを習得することを目的とします。第２次大戦後の東南アジア諸国の経済発展や政治変動を主な考察対象としますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、社会科学的な議論の組み立て方やデータを分析するための基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】
受講生が東南アジア諸国、あるいはそれ以外の地域の経済発展や政治変動について、自分自身で分析する能力を獲得することを目標とします。そのために、経済発展や政治変動についての基本理論と経済的な統計データの分析方法を学んでもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室でもオンラインでも履修できるハイフレックス授業として行う予定です。この授業の履修を希望する人は、できるだけ早めに（学期開始前でもかまいません）、担当教員（浅見： asami@hosei.ac.jp）に連絡してください。オンラインで授業に参加するために必要な meeting ID と passcode は「学習支援システム」のこの授業に関するページにも記載します。「学習支援システム」上で meeting ID と passcode が見当たらない場合は、担当教員にメールで連絡してください。
授業は一般理論について学ぶ回と、それを使って東南アジア諸国の実例を受講生が分析する回を交互に行います。授業中には受講生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域研究にとっての方法論の重要性と社会科学の基本的な考え方について説明します。
第 2 回	東南アジア諸国の経済発展とその要因 (1)	東南アジア諸国の経済発展の状況を概観するとともに、基本的な経済データの分析方法を学びます。
第 3 回	東南アジア諸国の経済発展とその要因 (2)	経済に関するデータを受講生自身が分析した結果を受講生に発表してもらいます。
第 4 回	東南アジア諸国の貿易構造の変化 (1)	東南アジア諸国の貿易構造の変化を概観するとともに、関税政策についての基本的な知識を身につけてもらいます。
第 5 回	東南アジア諸国の貿易構造の変化 (2)	貿易に関するデータを受講生自身が分析した結果を受講生に発表してもらいます。
第 6 回	経済発展と政治変動に関する理論	経済発展と政治変動との関係に関する理論についての理解を深めます。
第 7 回	政治変動に関するデータの種類と分析方法	政治変動に関するデータとそれらを使う際に注意しなければならないことについて学びます。
第 8 回	経済発展と政治変動に関する理論の応用	東南アジア諸国における経済発展と政治変動の関係について、受講生自身が行った分析について発表してもらいます。

第 9 回	地域研究のリサーチデザイン (1)	リサーチデザインについての基本的な知識を身につけてもらいます。
第 10 回	地域研究のリサーチデザイン (2)	東南アジア諸国の外国政策についての基本的な知識を身につけてもらいます。
第 11 回	地域研究のリサーチデザイン (3)	受講生が考えたリサーチのデザインについて発表してもらい、互いにその問題点を指摘し合ってもらいます。
第 12 回	先行文献の批判的読み方 (1)	東南アジアの政治経済について書かれた先行研究を読み、それらの研究で用いられているリサーチデザインを批判的に検討することによって、リサーチデザインについての理解を深めます。
第 13 回	先行文献の批判的読み方 (2)	東南アジアの政治経済について書かれた先行研究を読み、それらの研究で用いられているリサーチデザインを批判的に検討することによって、リサーチデザインについての理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ	1 学期間の授業の総括を行うとともに、夏休み期間中に受講生が行う調査研究の計画について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業のための授業時間外の学習時間は毎週平均 4 時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成したプリントを pdf ファイルとして配布します。教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
佐藤俊樹『社会科学と因果分析: ウェーバーの方法論から知の現在へ』岩波書店、2019 年／野村康『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会、2017 年／片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006 年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史第 9 巻　「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002 年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第 5 巻　東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002 年／古田元夫編『岩波講座世界歴史第 26 巻　経済成長と国際緊張： 1950 年代～ 70 年代』岩波書店、1999 年／古田元夫編『＜南＞から見た世界 02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999 年。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度 20 %、期末試験 80 %のウェイトで成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的な分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、政治学や経済学、社会学などの基礎的な理論の紹介にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】
経済統計の分析を行う回には、エクセルなどの表計算用ソフトがインストールされた PC が必要になります。

【その他の重要事項】
秋学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(2)」は履修せずに、春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」だけを履修することもできます。

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with basic knowledge and skills to conduct their own research on political and economic changes in Southeast Asia. Basic theories and statistical skills taught in this course will be useful for those who study about the other parts of the world as well. Prior knowledge about statistics or Southeast Asia is not required.

POL600A4-2319

国際地域研究（東南アジア）（2）

浅見　靖仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジア諸国の国際関係について多面的に理解し、自分自身でも分析を行うことができるようになることを目的とします。特に東南アジアと日本、中国との関係を重点的に取り上げます。時代的には第２次大戦直後から最現代までを扱いますが、2000 年以降の新しい動きに重点を置きます。

【到達目標】
受講生が東南アジア諸国を取り巻く国際関係について自分自身で分析できるようになることを目標とします。基礎知識の習得だけでなく、貿易や投資に関する統計の分析手法も身につけることを目指します。先行研究や報道記事を批判的に分析し、見方の分かれる論点についても、根拠と確率論的な考え方に基づいて社会科学的分析を行うことができるようになることも目指します。
教室に来ることができない人は、Zoom を使ってリモートで授業に参加することもできます。リモートで参加することを希望する人は担当教員に電子メール（asami@hosei.ac.jp）で連絡してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
秋学期の前半の授業では、受講生は毎週課題文献を読んだ上で授業に出ることが求められます。秋学期前半の授業は、教員が課題文献に関する質問を受験生に投げかけ、それに対する受講生の回答に教員や他の受講生がコメントをするというかたちで行います。秋学期後半は、各受講生が東南アジア諸国をめぐる国際関係に関するテーマを１つ選び、それについて発表を行い、他の受講生や教員がコメントをするゼミ形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	不確実な「事実」や不確実な未来に対して、確率論的な思考を行うことの重要性についての講義。
第 2 回	東南アジア諸国の外交政策 (1) ： 1980 年代以前	第２次大戦後から 1980 年代末までの東南アジア諸国間の国際関係について学びます。
第 3 回	東南アジア諸国の外交政策 (2) ： 1990 年代以降	1990 年代以降の東南アジア諸国間の国際関係と ASEAN の役割について学びます。
第 4 回	社会科学的分析の対象としての外交	外交政策についての基本的な分析方法について学びます。
第 5 回	東南アジア諸国と日本の関係 (1) ：外交	東南アジア諸国と日本の外交関係について学びます。
第 6 回	東南アジア諸国と日本の関係 (2) ：投資	日本から東南アジア諸国への投資について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第 7 回	東南アジア諸国と中国の関係 (1) ：外交	東南アジア諸国と中国の外交関係について学びます。
第 8 回	東南アジア諸国と中国の関係 (2) ：投資	中国から東南アジア諸国への投資について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第 9 回	東南アジア諸国間の領土問題	東南アジア諸国間の領土問題についての知識を深めるとともに、領土問題全般についての理論的考察も行います。

第 10 回	東南アジア諸国との域外大国との間の領土問題	東南アジア諸国と域外大国との間の領土問題についての知識を深めるとともに、領土問題全般についての理論的考察も行います。
第 11 回	ケーススタディー (1)	受講生が選んだ研究テーマに関する統計数字の分析を受講生に行ってもらいます。
第 12 回	ケーススタディー (2)	受講生が選んだ研究テーマについての研究構想について発表してもらいます。
第 13 回	ケーススタディー (3)	受講生が選んだ研究テーマについての研究構想について発表してもらいます。
第 14 回	授業のまとめ	1 学期間の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業のための授業時間外の学習時間は毎週平均 4 時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】
毎回異なる文献を課題文献とします。課題文献のリストは、学習支援システムに掲載します。

【参考書】
川中豪・川村晃一編『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020 年／川崎剛『社会科学としての日本外交研究』ミネルヴァ書房、2015 年、6,600 円／加納雄大『東南アジア外交：ポスト冷戦期の軌跡』信山社、2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの国内政治や国内経済だけでなく、東南アジア諸国間や東南アジアと日本や中国との間の関係についても学びたいという要望に応えるために、東南アジアの国際関係を多面的に学ぶ構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされた PC が必要です。

【その他の重要事項】
春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」を履修せずに、秋学期の「国際地域研究（東南アジア）(2)」だけを履修することもできます。「国際地域研究（東南アジア）(2)」だけの履修を希望する場合は、初回の授業の前日までに電子メールで担当教員に電子メール（asami@hosei.ac.jp）で連絡してください。

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of international relations among Southeast Asian countries and their relations with Japan and China. It covers diplomatic relations, trade, investment, and territorial conflicts.

POL600A4-2322

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）

宮下　雄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：一次史料としての外交文書の分析
授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】
本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
原則、履修者による報告によって講義を実施する。
新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、対面を軸としつつも、Zoom などオンライン形式での授業を行う可能性もある。
なお、最終回の講義では、春学期に扱った史資料に関する説明、そしてレポートなどに対する講評を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	受講者による史料読解・報告（1）	戦間期に関する外交①
第 3 回	受講者による史料読解・報告（2）	戦間期に関する外交②
第 4 回	受講者による史料読解・報告（3）	戦間期に関する外交③
第 5 回	受講者による史料読解・報告（4）	戦間期に関する外交④
第 6 回	受講者による史料読解・報告（5）	戦間期に関する外交⑤
第 7 回	受講者による史料読解・報告（6）	第二次世界大戦期の外交①
第 8 回	受講者による史料読解・報告（7）	第二次世界大戦期の外交②
第 9 回	受講者による史料読解・報告（8）	第二次世界大戦期の外交③
第 10 回	受講者による史料読解・報告 (9)	第二次世界大戦期の外交④
第 11 回	受講者による史料読解・報告 (10)	第二次世界大戦期の外交⑤
第 12 回	受講者による史料読解・報告 (11)	第二次世界大戦期の外交⑥
第 13 回	受講者による史料読解・報告 (12)	第二次世界大戦期の外交⑦
第 14 回	講義で扱った史資料に関する説明／レポートに関する講評	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】
瀬畑源『公文書をつかう―公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（70 %）、議論への参加度（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
学術論文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
履修するに際しては、国際関係史・国際政治史・外交史の基礎的な文献を読んでおくこと。
なお、報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際関係史／戦争史
＜研究テーマ＞フランス外交史／ヨーロッパ統合論
＜主要研究業績＞『フランス再興と国際秩序の構想ー第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016 年）など

【Outline (in English)】
Outline: Analyzing diplomatic papers
Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

POL600A4-2323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下　雄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：一次史料としての外交文書の分析
授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】
本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、必須となる一次史料の利用に習熟することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。
なお、先行き不透明だが、対面での演習とする。状況が悪化した場合、Zoom を利用する予定である。
最終回の演習で、秋学期に扱った史資料の解説や履修者が執筆したレポートなどに関する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第 2 回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第 3 回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第 4 回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第 5 回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期の外交①
第 6 回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期の外交②
第 7 回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期の外交③
第 8 回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期の外交④
第 9 回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期の外交⑤
第 10 回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化と外交①
第 11 回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化と外交②
第 12 回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化と外交③
第 13 回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化と外交④
第 14 回	史資料に関する解説／レポートなどに関する講評	外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States,『日本外交文書』など）

【参考書】
モーリス・ヴァイス（細谷雄一・宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史―二極化世界から混迷の時代へ』（慶應義塾大学出版会、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
報告の内容（70 %）、議論への参加度（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
　秋学期に開催する授業ということもあり、修士論文の執筆を念頭に置いた演習を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
　報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際関係史／戦争史
＜研究テーマ＞フランス外交史／ヨーロッパ統合論
＜主要研究業績＞『フランス再興と国際秩序の構想ー第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016 年）など

【Outline (in English)】
Outline: Analyzing diplomatic papers
Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take "International Area Studies (Europe) (1)" in the spring semester.

POL600A4-2324

日本政治外交研究 1

高橋　和宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、外交文書公開の進展や政治家等に対するオーラルヒストリーの蓄積により、戦後日本の政治外交史上の様々な争点が実証的に解明されつつある。本講義では、戦後日本外交に関する文献講読を通じて、こうした研究の最前線を理解するとともに一次史料の利用方法といった方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
戦後日本外交の主要な論点について一次史料に基づく専門知識を習熟する。また、そうした論点が現代の外交課題にどのようにつながっているのかを考える学問的素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習方式。講読対象文献を基に議論する。当該テーマに関する一次史料の読解を課題に課すことがある。
学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第 2 回	方法論（1）	戦後日本外交史の研究動向
第 3 回	方法論（2）	史料の使い方
第 4 回	文献講読（1）（受講生による報告）	戦後外交の始まりと再軍備（教科書①　第 1 部第 1〜2 章）
第 5 回	文献講読（2）（受講生による報告）	外交三原則と戦後処理外交（教科書①　第 1 部第 3〜4 章）
第 6 回	文献講読（3）（受講生による報告）	安保改定と沖縄返還（教科書①　第 1 部第 5〜6 章）
第 7 回	文献講読（4）（受講生による報告）	日中国交正常化（教科書①　第 1 部第 7〜8 章）
第 8 回	文献講読（5）（受講生による報告）	冷戦終結と湾岸戦争（教科書①　第 1 部第 9〜10 章）
第 9 回	文献講読（6）（受講生による報告）	サンフランシスコ講和体制（教科書②　第 1 部 1）
第 10 回	文献講読（7）（受講生による報告）	対ソ外交（教科書②　第 1 部 4）
第 11 回	文献講読（8）（受講生による報告）	対アジア外交（教科書②　第 2 部 6）
第 12 回	文献講読（9）（受講生による報告）	朝鮮半島外交（教科書②　第 2 部 8）
第 13 回	文献講読（10）（受講生による報告）	核軍縮・不拡散外交（教科書②　第 3 部 10）
第 14 回	総括	戦後日本外交の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①　栗山尚一『戦後日本外交　軌跡と課題』岩波書店、2016 年
②　波多野澄雄編『日本の外交　第 2 巻　外交史　戦後編』岩波書店、2013 年

【参考書】
授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業での報告及び議論への参加（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】
日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】
冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】
『ドル防衛と日米関係　高度成長期日本の経済外交　1959~1969 年』（千倉書房、2018 年）など。

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
This course aims to help students acquire an understanding of the political and diplomatic history of Japan since the end of the Second World War. Through intensive documents reading, students will learn the latest research findings as well as basic research methodology on historical archives.
(Learning activities outside of the classroom)
Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A4-2325

日本政治外交研究２

高橋　和宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、外交と内政との連関という視点から冷戦期の日米関係史を展望し、その特質を理解することを目的とする。戦後日米関係は占領期という特殊な時期を起点として、政治、経済、安全保障、文化と多層的な関係を築いてきた。経済摩擦や基地問題の例に顕著にみられるように、この間のプロセスは外交と内政とが密接に絡み合うものであり、双方の視点からその歴史的位置を見定めることが必要である。講義ではまた、実践的な史料の使い方や研究の方法論についても議論していく。

【到達目標】
戦後日米関係史上の主要な論点について専門的知識を習熟するとともに、そうした論点が現代日本の政治外交にどう繋がっているかを実証的に考察できる学術的知見を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習方式。博士論文をベースとして刊行された戦後日米関係（日米安保体制の確立、安保条約改定、沖縄返還、核、経済摩擦）に関する研究書を輪読する。一つの研究書を 2 回の授業で読了していく。対象とする研究書の選定は初回のガイダンスに行う。
学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第 2 回	方法論（1）	戦後日米関係史の研究動向
第 3 回	方法論（2）	史料の使い方
第 4 回	文献講読（1）（受講生による報告）	日米安保体制の確立①
第 5 回	文献講読（2）（受講生による報告）	日米安保体制の確立②
第 6 回	文献講読（3）（受講生による報告）	安保条約改定①
第 7 回	文献講読（4）（受講生による報告）	安保条約改定②
第 8 回	文献講読（5）（受講生による報告）	沖縄返還①
第 9 回	文献講読（6）（受講生による報告）	沖縄返還②
第 10 回	文献講読（7）（受講生による報告）	核をめぐる諸問題①
第 11 回	文献講読（8）（受講生による報告）	核をめぐる諸問題②
第 12 回	文献講読（9）（受講生による報告）	経済摩擦①
第 13 回	文献講読（10）（受講生による報告）	経済摩擦②
第 14 回	総括	戦後日米関係の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講読対象文献については初回の授業の際に確定する。

【参考書】
授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業での報告及び議論への参加（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】
日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】
冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】
『ドル防衛と日米関係　高度成長期日本の経済外交　1959~1969 年』（千倉書房、2018 年）など。

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
The main purpose of this course is to provide a basic perspective on the Japan-U.S. relationship during the Cold War era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered: formulation of the security arrangements, amendment of the Security Treaty, Okinawa reversion, nuclear problems, and economic friction.
(Learning activities outside of the classroom)
Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A4-2400

グローバル政治経済特別セミナー

坂根　徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本特別セミナーは、「コロナ禍における国際観光・文化政策：インドネシア・ASEAN・国連機関・G20 からの考察」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の知識を得るとともに、国際とインドネシアの観光政策と文化政策、関係の国際機関や G20、コロナ禍における国際公共政策の事例などを考察・分析する能力を涵養していくことも目的とする。

【到達目標】
This seminar aims students to deepen understanding about the theme of this seminar, to conduct in-class feedback and contribution, and to summarize understanding and consideration in final reflection report.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
This seminar will be based on mainly lectures and supplementary feedback between students and the lecturer.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening	Introduction and guidance
第 2 回	Global tourism policy	UN World Tourism Organization and international tourism policy
第 3 回	International tourism policy in corona time	Indonesia' and other cases
第 4 回	Regional tourism policy 1	ASEAN tourism policy and Indonesia's case
第 5 回	Regional tourism policy 2	APEC tourism policy and Indonesia's/ Japan's case
第 6 回	Dark tourism 1	Tourism and Terrorism in Indonesia
第 7 回	Dark tourism 2	Natural disasters and voluntourism in Indonesia
第 8 回	Global cultural policy 1	UNESCO and world heritage policy
第 9 回	Global cultural policy 2	UNESCO world heritage policy in Indonesia
第 10 回	Ethnic and cultural diversity	Indonesia's ethnic and cultural diversity
第 11 回	G20 2022 Summit	Indonesia Presidency and the thematic focus "Recover Together, Recover Stronger"
第 12 回	G20 policy development 1	Cultural and public policy
第 13 回	G20 policy development 2	Tourism policy
第 14 回	Closing	Summary and reflection report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

【テキスト（教科書）】
none

【参考書】
will be introduced in the class

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on in-class feedback and contribution (60%) and final reflection report (40%).

【学生の意見等からの気づき】
not applicable

【その他の重要事項】
This intensive seminar will be conducted starting on 30 Monday, January 2023 and ending on 4 Saturday, February 2023. Detailed schedule will be posted by administration of the Graduate School. Methods of teaching might be changed to online in the case that the lecturer becomes not possible to come to Japan because of corona situation. Details of this seminar will be explained in the opening and might be slightly modified.
Not only students of the Graduate School of Politics but also students of other Graduate Schools are possible to take this seminar. In addition, undergraduate students of the Department of Global Politics, Faculty of Law, who has a score more than TOEIC 550 or equivalent to it are also eligible to take this seminar.

【Brief Introduction of the Lecturer】
Dr. I Nyoman Darma Putra is a Professor at the Faculty of Humanities, Indonesia National Udayana University.
Prof. Putra received Ph.D. from the University of Queensland, Master from the University of Sydney and Bachelor from the Udayana University, and currently the Head of Doctoral Program of Cultural Studies in the Udayana University. Prof. Putra's specialty with relate to this class is international and Indonesian tourism and cultural policy.

【Outline (in English)】
Main theme of this seminar is "International Tourism and Cultural Policies in Corona Time: Consideration from Indonesia, ASEAN, UN Organizations and G20". By taking this seminar, students are expected to acquire related knowledge and foster ability to consider and analyze various international and Indonesian tourism and cultural policies, related international organizations and G20, and international public policy examples in corona time.

POL600A4-2401

開発援助運営論：ＪＩＣＡ講座

弓削　昭子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「実践講座クラスター」（現実とのダイアローグを目的とした科目群）のひとつとして設置されている本講座は、日本の政府開発援助 (ODA) を実施する「国際協力機構 (JICA)」の業務と開発協力・援助の主要課題について、JICA 現役職員がオムニバス方式で講義するものである。この講義では、開発途上国が抱える諸問題と、それらに対する国際協力・開発援助の役割と活動について日本政府 ODA と JICA 事業を中心に学ぶ。国際協力・開発援助の在り方、種類、課題について、さらに日本の ODA の特徴についての理解も深める。

【到達目標】
開発途上国の諸問題と国際協力・開発援助、特に日本の ODA と JICA 事業の役割と活動についての知識を身に付ける。また、開発協力・援助の主要課題と問題解決手法について、そして JICA の事業実施におけるさまざまなパートナーとの連携についても理解を深める。この授業を履修することで、地球規模や開発途上国の諸問題に対する観察力と分析力を高めることを目指す。そして、日本の ODA と JICA 事業の在り方について考え、自分なりの意見を持ち、提示できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．授業の進め方：毎回異なる講師によるオムニバス形式の授業である。このため、講義ごとにテーマや説明内容が完結する。
２．授業の方法：毎回の授業（100 分）はゲスト・スピーカーによる講義（70 分）と質疑応答（30 分）で展開する。このため、質問・コメントしたい学生は、予め発言内容を準備しておくことが望ましい。
３．授業計画：秋学期初回の授業において、「2022 年度授業計画」（ゲスト・スピーカー講義日程表）を配布・説明するので、必ず出席すること。ちなみに、2020 年度に開講した本講座内容は次のとおりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 1	開発援助政策論
第 2 回	JICA の業務内容	JICA 職員による講義と質疑応答
第 3 回	コロナ危機とは何か、それは世界と開発援助をどう変えるのか？	同上
第 4 回	日本型援助とは何か、それはどこから来たのか、どこへ行くのか？	同上
第 5 回	気候変動・環境問題	同上
第 6 回	新時代の国際協力～新興国と日本の課題解決に同時に取り組む戦略的アプローチ	同上
第 7 回	サブサハラ・アフリカ援助の現状と課題	同上
第 8 回	新たな援助潮流～民間ビジネスを通じた社会課題解決	同上
第 9 回	平和構築支援	同上

第 10 回	JICA ボランティア事業（含む青年海外協力隊）	同上
第 11 回	援助事業評価	同上
第 12 回	JICA が求める人材と仕事	同上
第 13 回	新興ドナーの台頭は既存援助秩序を塗り替えるか？	同上
第 14 回	総括	学生プレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。ただし、講義に先立ち、「JICA 年報」、「JICA 事後評価報告書」および「外務省 ODA・JICA ホームページ」をレビューしておくこと。

【参考書】
・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019 年
・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020 年
・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020 年
・黒崎卓、大塚啓次郎（編著）『これからの日本の国際協力：ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』日本評論社、2015 年
・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして』jfUNU レクチャー・シリーズ 10、国際書院、2018 年
・下村泰民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力ーその新しい潮流（第 3 版）』有斐閣、2016 年
・西垣昭・下村泰民・辻一人『開発援助の経済学ー共生の世界と日本の ODA』第四版：有斐閣、2009 年
・OECD, Development Cooperation Peer Reviews, Japan 2020, OECD, 2020
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言、討論への参加・貢献度）(40%)、およびプレゼンテーションとレポート（A4 サイズ、5 枚）(60%) に基づいて評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
担当教員は、国連職員として長年の開発援助の実務経験を有しており、授業では開発途上国の現場での活動を重視して開発援助運営の理論と実践を学ぶ。

【担当教員の専門分野等】
国際開発と平和構築、国際機構論

【Outline (in English)】
The aim of this course is to deepen understanding of the role and activities of Japan International Cooperation Agency (JICA), which undertakes Japan's ODA activities. The lectures will be delivered by various JICA staff on topics including: characteristics of Japan's ODA, JICA's role and main activities, human security, peace building, partnership with the private sector, volunteer activities including Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV), evaluation of development cooperation activities, role of emerging donors, and other areas.

POL600A4-2402

国際機関講座

弓削　昭子

備考（履修条件等）：**学部「国際機構論Ⅰ」と合同**
※学部卒で学部在籍時に履修済みの場合は履修不可

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course "International Organizations I", students will learn about the definition, roles, categories, functions, and history of international organizations. They will learn about the role of the United Nations (UN) and how various UN agencies tackle key global issues, including international peace and security, economic and social development, human rights, and humanitarian assistance. UN's activities to support the achievement of the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) will be examined. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】
The students will deepen their understanding on the characteristics and role of international organizations in this globalized world. Their understanding will be particularly enhanced on the unique role of the UN as well as their comparative advantages and limitations by analyzing the function of its principal organs and various UN agencies. The students will also understand how the UN system agencies collaborate with each other and with other actors (including civil society organizations, the private sector, academic and scientific community, etc.) in global partnerships to achieve the 2030 Agenda and the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
For 2020 spring semester, classes will start on 21 April (Tuesday)(2nd period). Please register using 学習支援システム（履修するためには、4 月 20 日までに学習支援システムで仮登録をして下さい）。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム（教材や授業のやり方などについては学習支援システムを見て下さい - お知らせ、教材などを参照）。
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to international organizations	Definition and roles of international organizations

2	Types of international organizations	Different categories and functions of international organizations
3	Background of international organizations	History of international organizations
4	The League of Nations	The League of Nations, success and shortcomings
5	Foundation of the United Nations (UN) System	Charter of the UN; purposes and principles of the UN
6	UN System and its structure	UN structure, its principal organs and decision making
7	UN General Assembly	Role of UN General Assembly
8	Conflict prevention and Security Council	UN's role in conflict prevention
9	Peacekeeping and Security Council	UN's role in peacekeeping
10	Peacebuilding	UN's role in peacebuilding
11	Economic and social development	UN's role in economic and social development
12	Humanitarian assistance	UN's role in humanitarian assistance
13	Human rights	UN's role in human rights, Human Rights Council
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】
· United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations (42nd Edition). United Nations Publication, New York, 2017.
· Clive Archer, International Organizations, Fourth edition. London and New York: Routledge, 2015.
· 国際連合広報局『国際連合の基礎知識　第 42 版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、関西学院出版会、2018

【参考書】
· 植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018 年）
· 山田哲也『国際機構論入門』（東京大学出版会、2018 年）
· 横田洋三（監修）『入門 国際機構』（法律文化社、2016 年）
· 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016 年）
· 渡部茂己・望月康恵（編著）『国際機構論　総合編』（国際書院、2015）
· 吉村祥子・望月康恵（編著）『国際機構論　活動編』（国際書院、2020 年）
· Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, Hylke Dijkstra, International Organizations, third edition. Palgrave MacMillan, 2019.

【成績評価の方法と基準】
Class participation(30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】
No particular points to note.

【その他の重要事項】
As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international organizations.

【Outline (in English)】
As written above.

POL600A4-2404

総合講座・国際協力講座

弓削　昭子

備考（履修条件等）：**学部「国際協力講座」と合同**
※学部卒で学部在籍時に履修済みの場合は履修不可

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】
この授業では国際社会の平和と安定および経済・社会・人間開発の推進、さらには持続可能な開発を推進するための国際協力活動の種類と役割を学ぶ。具体的には、日本と各国政府、国際機関、市民社会団体、民間企業、メディアなどを含む多様なアクターによる国際協力支援・協力についての理解を深める。また、国際社会におけるアクター同士の対話や連携が、どのように「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」および「持続可能な開発目標（SDGs）」の普及と達成に繋がるのかを、実例を通じて理解する。アクター間の連携における課題についても学ぶ。
異なるアクターを代表するゲスト講師による講義を通じて、学生は各アクターによる国際協力活動の役割、特徴、比較優位、限界などについての理解を深める。授業では、国際協力の現場での事例を通じた課題解決型実習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は毎回異なる講師によるオムニバス形式の授業である。講義は日本語、英語のどちらかで行われる。近年の国際協力活動は従来に比べ、より多様なアクターが関わっており、アクター間の連携によるグローバル・パートナーシップも推進されてきている。国連総会で 2015 年に採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の実施と達成においても、多様なアクターの連携が重要となる。この授業では、日本政府、国際機関、市民社会団体・NGO、民間企業、メディアなどから講師を迎え、それぞれの立場から国際協力に関しての役割・活動と課題および他のアクターとの協力・連携についての講義を行う。これらを通じて、現在の国際協力・国際協調の在り方や課題を総合的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第 2 回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第 3 回	持続可能な開発のための 2030 アジェンダと Sustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第 4 回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助（ODA）	ODA の実務家による講義と質疑応答
第 5 回	国際協力機構 (JICA) の役割、活動と課題	JICA 職員による講義と質疑応答
第 6 回	国際協力機構 (JICA) の緊急援助活動と課題	JICA 職員による講義と質疑応答

第 7 回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第 8 回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第 9 回	国際協力における市民社会団体・NGO の役割、活動と課題（保健衛生分野）	保健衛生分野の NGO の職員による講義と質疑応答
第 10 回	国際協力における市民社会団体・NGO の役割、活動と課題（ジェンダー平等分野）	ジェンダー平等と女性のエンパワーメント分野の NGO の職員による講義と質疑応答
第 11 回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第 12 回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第 13 回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第 14 回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメ、資料を適宜配布する。

【参考書】
・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019 年
・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020 年
・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020 年
・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしの SDGs への取組み』国際書院、2018 年
・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流』第３版、有斐閣選書、2016 年
・外務省『開発協力大綱』、2015
・浅沼信爾・小浜裕久『ODA の終焉』勁草書房、2017 年
・ブルース・ジェンクス、ブルース・ジョーンズ（編著）『岐路に立つ国連開発、変容する国際協力の枠組み』、人間と歴史社、2014 年
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%) と筆記試験 (70%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
担当教員は、国連職員として長年の国際協力の実務経験を有しており、授業では開発途上国の現場での活動を重視して国際協力の理論と実践を学ぶ。

【Outline (in English)】
This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and related issues.

法政大学
HOSEI University